

AstraZeneca PLC 2013年第4四半期・通年業績

2014年2月6日 ロンドン発

サイエンスのリーダーシップ実現に向けて大きな進捗を遂げました。

- ・ パイプラインには第3相と申請中の段階に、前年比ほぼ倍増の11品目の新規分子化合物が含まれます。

中核となる治療領域において事業開発を通じてパイプラインおよびポートフォリオが強化されました。

- ・ 糖尿病アライアンスにおけるブリストル・マイヤーズ スクイブの持ち分の統合を迅速に実施中：事業統合は2014年2月1日に完了しました。

2013年の財務業績は、当社の予想に沿ったものであり複数製品の独占権の失効を反映しています。

2014年から2015年に新たに第3相試験を開始する可能性のある新薬候補は19品目あります。

既報の事業再構築プログラムは合計11億ドルの年間経費削減を達成する規模に拡大されました。

当社は2014年の売上は恒常為替レート（CER）ベースで1桁台の前半から半ばのパーセンテージで減少すると予想しています。中核1株当たり利益（EPS）の減少率は13～19%と予想されます。

取締役会は1株当たり1.90ドルの第2回中間配当を発表し、通年の配当は2.80ドルとなりました。取締役会は引き続き累進的配当政策を堅持しています。

財務業績ハイライト

通年売上は、後発品の競合により、CERベースで6%減の257億1,100万ドル

- ・ 2013年、主要成長基盤である *Brilinta*、糖尿病フランチャイズ、呼吸器、新興市場および日本はCERベースで12億ドルの売上増を達成しましたが、特許失効の影響によるCERベースで22億ドルの売上減がこれを上回りました。本四半期、中国の売上はCERベースで21%伸長しました。

通年中核EPSはCERベースで23%減の5.05ドル

- ・ EPSの減少率は、主に当社の主要成長基盤とパイプライン強化への投資により、売上の減少率を上回りました。

報告ベースの通年EPSはCERベースで55%減の2.04ドル

- ・ 第4四半期のビデュリオンの評価減（17億5,800万ドル）により報告ベースのEPSは1.10ドル減少し、本四半期は報告ベースで1株当たり0.42ドルの損失を計上しました。

営業活動から生じたキャッシュは、2012年の69億ドルに対し、2013年は74億ドルでした。

第4四半期の売上はCERベースで4%減の68億4,400万ドルでした。中核EPSはCERベースで25%減の1.23ドルでした。

研究開発ハイライト

- *Farxiga* (米国) および *Xigduo* (EU) が2型糖尿病治療薬として承認取得
- *Olaparib* (EU) および *naloxegol* (EU & 米国) の承認申請を完了
- *Benralizumab*, *selumetinib*, *olaparib* および *moxetumomab* の第3相試験を開始
- 革新的な免疫介在がん治療薬ポートフォリオの複数の試験が進行中

ファイナンシャルサマリー

グループ	第4四半期	前年	CER	通年	前年	CER
	2013	同期比	%		2013	同期比
	100万ドル	%		100万ドル	%	
売上高	6,844	(6)	(4)	25,711	(8)	(6)
中核ベース*						
営業利益	1,983	(29)	(26)	8,390	(25)	(22)
1株当たり利益	\$1.23	(28)	(25)	\$5.05	(26)	(23)
報告ベース						
営業(損失)/利益	(591)	(130)	(128)	3,712	(54)	(51)
1株当たり(損失)/利益	(\$0.42)	(135)	(132)	\$2.04	(59)	(55)

* 中核財務指標の定義および中核ベースと報告ベースの財務指標の調整については、営業およびファイナンシャルレビューページをご覧ください。

最高経営責任者パカル・ソリオの業績に関するコメント: 「予想どおり、当社の2013年の財務業績は主要数ブランドの独占権失効の継続的な影響を反映しています。短期的には、このような逆風が引き続き困難な課題となりますが、私は予想より早く成長を回復することが可能であると確信しており、2017年の売上は、2013年の実績に概ね沿ったものになると考えています。

私は2013年に当社の戦略的優先事項、特にサイエンスのリーダーシップ実現という目標に向けて社内に生まれた勢いを嬉しく思っています。当社は、過去12カ月間にほぼ倍増させた有望な後期パイプラインに投資するためにリソースを再配分し、全社を挙げて成長を促進する分野に集中します。ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との提携における同社の権利取得によりこの重要な領域における当社のポジションが強化されますが、私はこの事業統合が迅速に進捗していることを大変喜ばしく思っています。当社の糖尿病ポートフォリオの可能性の最大化に協力してくれる新しい同僚を温かく歓迎しています。」

営業およびファイナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER) ベースおよび中核ベースで示されています。当社の報告ベースの財務情報に加えて提示するこうした指標はGAAP (一般会計原則) とは異なる指標であり、当社グループの進行中のビジネスの基礎的な財務実績やそれにプラスとなるビジネス上の重要な要素をよりよく理解していただく上で有益だと当社経営陣は考えています。中核ベースの財務指標では、ISに関連した無形固定資産やその他の特殊項目を除く当社の世界的な事業再構築プログラムの費用、全ての無形資産の償却費、評価減といった一定の重要項目を除外し調整されています。これら調整の性質に関する詳細は、当社のアニュアルレポートの88ページと97ページおよび2012年米国証券取引委員会 (SEC) への提出書類20-Fに示されています。

2012年の中核財務業績は中核財務指標に関するグループの定義の変更に伴い修正しています。この変更は、2013年第1四半期の財務実績より実施されました。2013年1月1日に施行されたIAS第19条「従業員給付」へ改正の採用を反映するために報告ベースおよび中核財務実績も修正表示しています。

第4四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位。加重平均株数も100万単位。

	2013年 報告 ベース	事業 再構築 費用	無形資産 償却	無形資産 評価減	法務関連 引当金等	2013年 中核 ベース	2012年 中核 ベース	実質 %	CER %
売上高	6,844	-	-	-	-	6,844	7,282	(6)	(4)
売上原価	(1,440)	22	129	-	-	(1,289)	(1,210)		
売上総利益	5,404	22	129	-	-	5,555	6,072	(9)	(7)
売上比%	79.0%					81.2%	83.4%	-2.2	-2.4
物流費	(72)	-	-	-	-	(72)	(79)	(9)	(7)
売上比%	1.1%					1.1%	1.1%	-	-
研究開発費	(1,429)	84	15	143	(18)	(1,205)	(1,180)	2	2
売上比%	20.9%					17.6%	16.2%	-1.4	-1.0
販売・一般管理費	(4,642)	279	233	1,662	(15)	(2,483)	(2,204)	13	14
売上比%	67.8%					36.3%	30.3%	-6.0	-5.7

その他収入	148	-	40	-	-	188	186	1	1
売上比%	2.2%					2.8%	2.6%	+0.2	+0.1
営業利益	(591)	385	417*	1,805	(33)	1,983	2,795	(29)	(26)
売上比%	-8.6%					29.0%	38.4%	-9.4	-9.0
正味金融費用	(124)	-	-	-	-	(124)	(128)		
税引前利益	(715)	385	417	1,805	(33)	1,859	2,667	(30)	(28)
税金	195	(70)	(59)*	(385)	4**	(315)	(529)		
税引後利益	(520)	315	358	1,420	(29)	1,544	2,138	(28)	(25)
非支配持分	(4)	-	-	-	-	(4)	(13)		
純利益	(524)	315	358	1,420	(29)	1,540	2,125	(28)	(25)
加重平均株式数	1,254	1,254	1,254	1,254	1,254	1,254	1,246		
1株当たり利益 (EPS)	(0.42)	0.26	0.28	1.13	(0.02)	1.23	1.71	(28)	(25)

* 無形資産償却費にはメルク社関係の償却費が含まれ、そのうち9,800万ドルに税調整は発生しません。

** 法務関連引当金等には税調整の発生しない1,400万ドルが含まれます。

第4四半期の売上高は、CERベースで4%減、実質ベースで主に為替レート動向のマイナス影響を受けて6%減。当社の主要成長基盤がCERベースで19億ドルの売り上げ増に寄与し、前年比6%増加しました。しかし、近年独占権を失効した製品の売上減少がこれを上回りました。

米国の第4四半期の売上は7%減。独占権失効の影響は売上減の約半分に相当します。その他の減少分は、クレストールとネキシウムの売上減によるものですが、この減少は、シムビコート、糖尿病フランチャイズ、FluおよびBrilintaの成長により一部軽減されました。米国の医療保険制度改革による第4四半期売上およびコストへのマイナス影響は、合計約3億1,800万ドルでした。

ROW（米国以外の地域）の第4四半期の売上は2%減。ヨーロッパの売上は2%減。セロクエルIR、Atacand、ネキシウム、Merremの減収は、一部、Brilique、バイエツタおよびビデュリオンの増収により軽減されました。ROWの既成市場の第4四半期の売上は、主にカナダのクレストールに対する後発品の競合およびパートナー企業の発注パターンによりマイナス影響を受けた日本のセロクエルIRにより、10%減。新興市場の売上は6%増。中国の売上は21%増、韓国の売上は17%増と力強い業績を達成しましたが、在庫調整によるメキシコの減収により一部軽減されました。これらの調整を除くと、第4四半期の新興市場の売上は8%増。

第4四半期中核売上総利益は7%減。中核売上総利益率は前年同期比2.4ポイント減の81.2%。好ましくない製品構成がこの減少の一因です。

第4四半期の研究開発費は2%増。事業再構築や他の要因によるコスト削減が継続しましたが、ライセンス導入、買収あるいは提携によるプロジェクトへの投資がそれを上回りました。

第4四半期中核販売・一般管理費は、前年同期比14%増の24億8,300万ドル。この増加は、主要成長基盤、特にBrilinta、糖尿病フランチャイズおよび新興市場への投資の増額によるものです。米国の医療保険制度改革政策により課された物品税は、当四半期の販売・一般管理費の2.4%に相当しました。

第4四半期中核その他収入は1%増の1億8,800万ドル。

第4四半期中核営業利益は26%減の19億8,300万ドル。成長基盤や後期段階のパイプライン拡大への投資により、売上の減少率に比べ大幅に高い減少率となりました。中核営業利益率は前年同期比9ポイント減の29.0%。

第4四半期中核EPSは25%減の1.23ドル。これは概ね中核営業利益の減少に沿ったものです。

ビデュリオン関連の無形資産評価減17億5,800万ドル（1株当たり1.10ドル）により、当社は第4四半期報告ベースで1株当たり損失0.42ドルおよび営業損失5億9,100万ドルを計上しました。

通年業績

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万ドル単位。加重平均株数も100万単位。

	2013年 報告ベース	事業 再構築 費用	無形資産 償却	無形資産 評価減	法務関連 引当金	2013年 中核ベース	2012年 中核ベース	前年 同期比%	CER %
売上高	25,711	-	-	-	-	25,711	27,973	(8)	(6)
売上原価	(5,261)	126	502	-	-	(4,633)	(4,932)		
売上総利益	20,450	126	502	-	-	21,078	23,041	(9)	(7)
売上比%	79.5%					82.0%	82.4%	-0.4	-0.5
物流費	(306)	-	-	-	-	(306)	(320)	(4)	(3)
売上比%	1.2%					1.2%	1.2%	-	-
研究開発費	(4,821)	490	30	50	(18)	(4,269)	(4,241)	1	1
売上比%	18.7%					16.6%	15.1%	-1.5	-1.1
販売・一般管理費	(12,206)	805	902	1,662	(28)	(8,865)	(8,389)	6	7
売上比%	47.5%					34.5%	30.0%	-4.5	-4.3
その他収入	595	-	157	-	-	752	1,068	(30)	(30)
売上比%	2.3%					2.9%	3.8%	-0.9	-1.0
営業利益	3,712	1,421	1,591*	1,712	(46)	8,390	11,159	(25)	(22)
売上比%	14.4%					32.6%	39.9%	-7.3	-6.9
正味金融費用	(445)	-	-	-	-	(445)	(502)		
税引前利益	3,267	1,421	1,591	1,712	(46)	7,945	10,657	(25)	(23)
税金	(696)	(302)	(256)*	(364)	7**	(1,611)	(2,022)		
税引後利益	2,571	1,119	1,335	1,348	(39)	6,334	8,635	(27)	(24)
非支配持分	(15)	-	-	-	-	(15)	(30)		
純利益	2,556	1,119	1,335	1,348	(39)	6,319	8,605	(27)	(24)
加重平均株式数	1,252	1,252	1,252	1,252	1,252	1,252	1,261		
1株当たり利益 (EPS)	2.04	0.90	1.06	1.08	(0.03)	5.05	6.83	(26)	(23)

* 無形資産償却費にはメルク社関係の償却費が含まれ、そのうち3億9,200万ドルに税調整は発生しません。

** 法務関連引当金・その他のうち1,400万ドルに税調整は発生しません。

通年売上はCERベースで6%減、実質ベースでは為替レート動向のマイナス影響を受けて8%減。減収の要因は主要ブランド数製品の独占権失効による減収です。米国の売上は9%減、米国以外の売上は4%減。

中核売上総利益率は前年比0.5ポイント減の82.0%。

通年中核研究開発費は1%増。これは、事業開発のコスト増および拡大する後期段階パイプラインへの投資を吸収したためです。

中核販売・一般管理費は前年比7%増。これは、成長基盤支援のための投資が増加したことによりですが、2012年の相対的に低い支出レベルとの比較において、増加率が増大しました。米国の医療保険制度改革施行により課税された物品税は2013年の中核販売・一般管理費の2.7%に相当します。

通年中核その他収入は30%減。これは、2012年のネキシウムのOTC販売権売却益を反映しています。

通年中核営業利益は22%減の83億9,000万ドル。中核営業利益率は6.9ポイント減の対売上比32.6%。

中核1株当たり利益（EPS）は、前年比23%減の5.05ドル。中核営業利益の減少に概ね沿ったものです。

報告ベースの通年営業利益は51%減の37億1,200万ドル、報告ベースのEPSは55%減の2.04ドル。中核財務指標との比較において大幅に減少した原因は、主にビデオリオンに関する17億5,800万ドルの無形資産評価減およびメルク社の第2オプションに関連する通年の償却費です。

事業再構築第4段階プログラムの拡大

2013年3月、当社は戦略を達成することこそ変革にとって必要であると説明しました。当社は、拠点および人材の集約を含む革新的な環境の整備とともに組織とプロセスの大幅な簡素化に取り組んでいます。アストラゼネカは、複雑性を排除し、事業拡大への投資の追加資金を捻出し、株主のみなさまへの還元を確保することで、引き続き組織全体で生産性の向上を推進しています。

既報のとおり、当社は2013年3月21日に発表した再構築プログラムをそれ以前に発表したプログラムと組み合わせ、2013年から2016年の期間に全世界で約5,050人の人員削減を想定する統合第4段階プログラムを策定しました。この統合プログラムにより損益計算書に特別事業再構築費用として23億ドルが計上される予定ですが、そのうち17億ドルはキャッシュ費用コストであると予想されます。2013年、当社は引き続き第4段階プログラムを迅速に実施し、14億ドルを支出し、約4億ドルの年間経費節減を達成しました。全体のプログラムは2016年末までに、約8億ドルの年間費用削減を達成するという目標に向けて予定通り進捗しています。現在、このプログラムの費用は当初より2億ドル増えて合計25億ドルと予想されます。

これら再構築のイニシアチブは、パイプラインと主要成長基盤に投資する更なる資金を捻出するために拡大され、更なるコスト削減と柔軟性の向上を目的としたIT（情報技術）組織とインフラの変革、インド・バンガロールでの研究開発活動の終了、一定の新興市場でのブランドジェネリックビジネスからの撤退などを行いました。完了時に、再構築プログラムの拡大により2016年末までに、新たに年間3億ドルのコスト削減が達成され、この第4段階プログラムの推定年間コスト削減額は11億ドルになります。Non-Core 再構築コストに含まれるこのプログラムの新たなイニシアチブによる追加コストの総額は推定7億ドル、うち6億ドルはキャッシュを想定しており、第4段階プログラムの総額は32億ドルと予想されます。社内で既に発表しているとおり、プログラムの拡大は約550人に影響を与えると推定され、2013年から2016年の期間、第4段階プログラムにおける全世界での削減人員の総数は約5,600人になります。

全部門におけるプログラムに要する費用、プログラムによる費用削減および人員への影響の最終推定値は、すでにプロセスは多くの分野で開始されていますが、様々な分野における必須協議プロセスの完了後に決定されます。当社はこれらの事業再構築イニシアチブを実行するにあたり、影響をうける社員と協力し、関連する各国の法的要請および労働法に従って行動することを優先します。

金融収益・費用

第4四半期の正味金融費用は、2012年同期の1億2,800万ドルに対し、1億2,400万ドル。通年正味金融費用は、2012年同期の5億200万ドルに対し、4億4,500万ドル。確定給付年金の負債への金利が通年で1,400万ドル減少。また、2012年は1,000万ドルの公正価値損失が生じたのに対し、2013年は長期債券に計上した500万ドルの公正価値利得がありました。通年の長期債券金利は前年比1,600万ドル減少しました。

税金

報告ベースの通年税率は21.3%（前年同期18.0%）。第4四半期の報告ベースの税率は27.3%（前年同期17.2%）。2012年12月31日まで通年の報告ベースの税率はスウェーデンの法人税率が26.3%から22.0%に引き下げられたことによる2億3000万の繰延税金の調整及び過年度の移転価格問題解決に関する2億4,000万ドルの調整を含みます。これらの利益を除外すると、2012年の報告ベースの税率は24.1%。

キャッシュ・フロー

2013年12月31日までの1年間に営業活動から生じたキャッシュは、前年同期間の69億4,800万ドルに対して、74億ドル。納税額と金利支払い額の低下が2013年の営業利益の低下を一部緩和しました。さらに、減損や非現金項目の調整があったこと、また前年度には運転資本の動向および一時的な年金基金への拠出によりキャッシュ・アウトフローが増加したことによります。

投資活動による通年の正味キャッシュ・アウトフローは、2012年の18億5,900万ドルに対し、28億8,900万ドル。2013年の無形資産購入費は26億3,100万ドル減少しましたが、短期投資の満期によるインフローの減少がこれを上回りました。前年度は短期投資の満期により投資活動によるキャッシュ・フローは36億1,900万ドル改善されました。

株主への現金配分は配当金34億6,100万ドルから株式発行資金4億8,200万ドルを差し引いた29億7,900万ドル。

資本と負債の構造

2013年12月31日現在、未払負債残高（有利子負債と借入金）は103億7,600万ドル（2012年12月31日現在では103億1,000万ドル）。2013年12月31日現在の未払負債残高のうち、1年以内に返済期限が到来するのは17億8,800万ドル（2012年12月31日の時点では9億100万ドル）。

2013年1月1日現在13億6,900万ドルの正味負債がありましたが、2013年12月31日現在3,900万ドルの正味資金を計上しました。この改善は上記キャッシュ・フロー項目で説明した正味キャッシュ・インフローによるものです。

配当と株式の買い戻し

取締役会は1株当たり1.90ドル（116.8ペンス、12.41クローナ）の第2回中間配当を2014年3月24日に支払うことを勧告し、この結果、年間配当は2.80ドル（176.0ペンス、18.33クローナ）。

この配当は、取締役会が採択した年間配当水準の維持あるいは増配を目的とする累進的配当政策に合致するものです。

取締役会は、引き続き当社、債権者および株主それぞれの利益のバランスを図ることを目指し、定期的に配分政策および全般的な財務戦略を見直すとともに、高い投資適格格付けの獲得を目指しています。事業投資、累進的配当政策に要する資金調達および当社の債務元利未払金の支払に配慮し、取締役会は2012年10月に発表された株式買い戻しの停止を継続することが適切であると確信しています。

2013年通年で、4億5,100万ドルのスキームのもと1,040万株が発行されました。

2013年12月31日現在の総発行済み株式数は12億5,700万です。

今後の見通し

過去のすべての財務ガイダンスおよび事業計画の前提を無効とする新たな財務ガイダンスは以下の通りです。

- 当社は2014年の売上は恒常為替レート（CER）ベースで1桁台の前半から半ばの比率で減少すると予想しています。
- 2014年の中核1株当たり利益（EPS）は13～19%減少すると予想されます。
- 当社は2017年の売上は、2013年の実績に概ね沿ったものになると予想しています。

上記ガイダンスは米国でのネキシウムの後発品上市時期を2014年5月と想定しています。

このガイダンスは、2014年1月時点における主要通貨の平均為替レートに基づいており、2014年末までの平均為替レートが、財務ガイダンスで前提としている為替レートから大幅に変動する可能性は考慮されていません。米ドルに対する当社の主要取引通貨の変動によって、売上や利益が受ける影響度の予想は、当社ウェブサイトwww.astrazeneca.com/investorsで閲覧可能です。

研究開発の最新情報

当社研究開発パイプラインの総合的な最新情報は、2013年通年業績に関連して提供されており、当社ウェブサイトでご覧可能です。今後、アストラゼネカは研究開発パイプライン情報に関し、これまでの半年毎の更新から四半期毎に更新へと変更します。

2013年3月21日開催のInvestor Dayにおいて、当社はサイエンスのリーダーシップを実現するという戦略の概要を説明しました。この戦略には呼吸器、炎症および自己免疫、循環器および代謝疾患、オンコロジー（がん）の3つの中核治療領域での独自のサイエンスに研究開発活動を集中することが含まれます。以来、アストラゼネカのパイプラインは大変革を経て、現在99件のプロジェクトを擁し、うち85件は臨床開発段階にあり14件は承認取得、上市済みあるいは申請中の段階にあります。2013年ポートフォリオ全体で33のプロジェクト（うち14のプロジェクトは最初の臨床試験開始）が次の段階への移行に成功し、15のプロジェクトが中止されました。

患者さんのニーズに応える最大の可能性があるこれらの疾患領域における後期段階にある開発プロジェクトの優先順位を決め、あるいは、いくつかのプロジェクトに関しては加速させた2013年は研究開発部門にとって非常に生産性の高い年でした。結果として、後期段階のパイプラインは予想以上のスピードで成長し、11個の新規分子化合物が現在第3相あるいは審査中にあり、2013年の年初からほぼ倍増しました。これにより、当社は第3相パイプラインの2016年の数値目標を予定より約3年早く達成しました。

研究開発パイプラインの強化はPearl TherapeuticsとOmthera Pharmaceuticalsの買収およびFibroGenからの腎疾患治療薬候補のライセンス導入により促進されました。2013年3月の当社のInvestor Dayにおいて4つのプロジェクト（benralizumab, olaparib, moxetumomab pasudotoxおよびselumetinib）が2013年中に第3相試験を開始する可能性のあるプロジェクトとして特定されましたが、その4つの全てが開発の後期段階への移行に成功しました。

多くの早期段階プロジェクトが最初の臨床データを出し、承認申請のための試験に向けて迅速に進捗しています。注目すべきプロジェクトは次の2つを含みます: MEDI4736（固形がんを適応とする抗PD-L1モノクローナル抗体 (mAb)）および AZD9291（進行EGFR遺伝子変異陽性 (M+) 非小細胞肺癌 (NSCLC) を適応とする第3世代不可逆性上皮成長因子受容体 (EGFR) チロシンキナーゼ阻害剤 (TKI)）。両プロジェクトとも2014年に第3相試験が開始される予定です。これにより、当社は2014年から2015年に第3相試験を開始する可能性のある19のプロジェクトを特定しました。

2013年第3四半期の更新以降の主なパイプラインの進展は下記を含みます。

免疫介在がん治療薬 (IMT-C)

当社の IMT-C パイプラインは急速に成長しました。いくつかの併用試験が開始されました。抗CTLA-4モノクローナル抗体 (mAb) である tremelimumab と MEDI4736（抗PD-L1 mAb）の併用の可能性を検討している2つの試験は複数のがんのタイプにおける安全性と有効性の評価を目的としています。また、メラノマにおける MEDI4736 と dabrafenib/trametinib の併用試験（GSKと共同）も開始されました。別の第1相試験は進行EGFR遺伝子変異陽性 (M+) 非小細胞肺癌におけるイレッサと tremelimumab の併用の可能性を検討しています。さらに、新たな併用試験を2014年に開始する計画です。また、MEDI0680 と AMP-514（Amplimmune社買収により取得した抗PD-1 mAb）の固形がん成人患者における第1相、ファースト・イン・ヒューマン用量漸増試験を開始しました。さらに、tremelimumab の無作為化第2相試験において Furthermore, a randomized Phase II study is exploring in patients with unresectable pleural or peritoneal malignant mesothelioma.

Farxiga

2014年1月8日、アストラゼネカと提携先 Bristol-Myers Squibb (BMS) は、米国食品医薬品局 (FDA) が成人2型糖尿病治療薬として Farxiga (ダパグリフロジン) 錠を承認したと発表しました。Farxiga は腎尿細管でのグルコース再吸収を制御するナトリウム・グルコース共輸送体2 (SGLT-2) に対する選択的かつ可逆的な阻害剤であり、インスリンを介さず血液中の過剰なグルコースを尿と共に体外へ排出させ、血糖を低下させる薬剤です。Farxiga は Forxiga の商標で2012年11月に EU において承認されました。

Xigduo

2014年1月22日、アストラゼネカと提携先 BMS は、Xigduo (ダパグリフロジンとメトホルミン塩酸塩) が2型糖尿病の適応で EU において承認されたと発表しました。Xigduo は、選択的かつ可逆的な SGLT-2 阻害剤であるダパグリフロジン（選択的かつ可逆的 SGLT2 阻害剤）とメトホルミン塩酸塩の配合剤です。これら2つの製品は共に高血糖治療薬であり、血糖コントロールを改善する相互補完的な作用機序を有する1日2回投

与の錠剤です。本製品は最初に承認された SGLT2 阻害剤とメトホルミンの定量配合剤です。

2013年第4四半期、アストラゼネカと提携先BMSは、2型糖尿病治療薬として1日2回投与の錠剤であるXigduo (ダパグリフロジンとメトホルミン塩酸塩除放製剤)定量配合剤の新薬承認申請 (NDA) を米国FDAに提出しました。

Fluenz Tetra

2013年12月6日、アストラゼネカは欧州委員会 (EC) が *Fluenz Tetra* を季節性インフルエンザ予防の適応で承認したと発表しました。*Fluenz Tetra* は生後 24 カ月から 18 歳までの小児・青少年のインフルエンザ予防を適応とする経鼻投与 4 株弱毒性インフルエンザ生ワクチンです。これにより *Fluenz Tetra* はヨーロッパにおける最初で唯一の経鼻投与 4 株インフルエンザワクチンになりました。

Metreleptin

2013年12月11日、米国FDAの内分泌・代謝薬諮問委員会 (EMDAC) は、metreleptin を小児および成人全身性リポジストロフィー (脂肪異常栄養症) 治療薬として推奨しました。同諮問委員会は、metreleptin を限局性リポジストロフィー治療薬としては推奨しませんでした。FDA は同委員会の推奨に拘束されることはありませんが、metreleptin のバイオ医薬品承認申請の審査にあたりその推奨に配慮します。処方箋薬ユーザーフィー法 (PDUFA) による metreleptin の審査終了予定日は 2014 年 2 月 24 日です。

ビデュリオンデュアル・チェンバー・ペン

2013 年第 4 四半期、アストラゼネカと提携先 BMS は、欧州医薬品庁 (EMA) に対し、2 型糖尿病治療を適応としてビデュリオンデュアル・チェンバー・ペンの承認申請 (Type 2 Variation) を行ったと発表しました。

Naloxegol

2013年11月19日、当社は、FDAが、末梢作用型μオピオイド受容体拮抗薬 (PAMORA) naloxegolの新薬承認申請を受理したことを発表しました。同剤は、オピオイド鎮痛剤の長期投与による最もよく見られる副作用である、非がん性慢性疼痛の成人患者さんにおけるオピオイド誘発性便秘 (OIC) 治療薬として開発されています。

アストラゼネカは、米国FDAの麻酔・鎮痛薬諮問委員会 (AADPAC) が、OIC治療のためのPAMORAクラスの治療薬の安全性データを審査する計画であるとの通知を受けました。NaloxegolはこのFDA AADPAC協議の対象になりますが、その協議の時期については不明です。

NaloxegolはアストラゼネカとNektar Therapeutics社の全世界を対象とする独占的ライセンス契約に含まれています。

Lesinurad

2013 年 12 月 13 日、当社は LIGHT 試験結果の概要を発表しました。本試験は、現在の標準治療であるキサンチンオキターゼ阻害剤 allopurinol と febuxostat のいずれかまたは両方に不耐性、または服用できない痛風患者さんの小母集団における単剤療法としての lesinurad の可能性を調査する第 3 相臨床試験です。Lesinurad は腎臓で尿酸の対外排出を制御する近位尿細管細胞に存在する尿酸トランスポーター、URAT1 の選択的阻害剤として開発中です

試験結果は、lesinurad がプラセボと比較して統計的に有意差のある ($p < 0.0001$) 多数の患者において 6 カ月の時点で 6.0 mg/dL 未満 LIGHT 試験の主要評価項目である目標血清尿酸値を達成したことを示しました。

LIGHT 試験において Lesinurad 単剤投与患者には、プラセボ投与患者に比べ、より多くの血清クレアチニン値の上昇および重篤な事象を含む腎臓の有害事象が見られました。Lesinurad 単剤投与患者に共通してみられたその他の有害事象には下痢、吐き気および便秘を含みます。

Lesinurad プログラムに含まれる他の第 3 相試験には、アロプリノール単剤では目標血清尿酸値を達成しない患者における lesinurad とアロプリノールの併用試験 (CLEAR1 および CLEAR2) ならびに結節性痛風患者における febuxostat との併用試験 (CRYSTAL) があります。これらの試験結果は 2014 年半ばに得られると予想され、米国 (NDA:新薬承認申請) および EU (MAA 販売承認申請) における承認申請は 2014 年下半年と予想されます。

Zinforo

2013年11月、Asia Community Acquired Pneumonia (CAP：市中肺炎) 第3相試験が終了し、その結果、アジアの市中肺炎患者におけるセフトリアクソン 2g 1日1回投与との比較で Zinforo（セファロsporin系抗生物質）600mg1日2回投与の良好な有効性および同等の忍容性プロファイルが示されました。この無作為化、二重盲検、実薬対照第3相試験の目的は、アジア地域の市中肺炎成人患者における Zinforo の効果および忍容性のプロファイルを確認することでした。

本試験の全結果は今後の学会において発表されます。

2009年、Forest Laboratories社は、米国、カナダ、日本を除くセファロsporin系抗生物質の世界的独占販売権および共同独占開発権をアストラゼネカに供与しました。

事業開発案件

グローバル糖尿病アライアンス資産のBMSの持ち分取得

2014年2月1日、アストラゼネカはグローバル糖尿病アライアンス資産のBMSの持ち分の取得を完了しました。会計上企業結合として処理されるこの取引は、完了時に27億ドルの最初の支払い、承認、発売および売上関連の14億ドルの支払い、および2025年までの様々な売上関連ロイヤリティの支払いを含みます。更に、アストラゼネカは一定の資産がその後承継された場合最大2億2,500万ドルの支払いを行う可能性があります。詳細は注記9をご覧ください。

取引の完了を持って、アストラゼネカは糖尿病事業の知的財産およびその開発、製造および商業化の全世界の権利の所有者となりました。この糖尿病事業に含まれる製品：オングリザ(サクサグリプチン)、Kombiglyze XR (サクサグリプチンとメトホルミン塩酸塩徐放製剤)、Komboglyze (サクサグリプチンとメトホルミン塩酸塩)、Farxiga (米国以外の製品名：Forxiga)、バイエッタ (エキセナチド)、ビデュリオン (持続性エキセナチド注射剤)、metreleptin and Symlin (プラムリンチド酢酸塩)

本取引によりアストラゼネカにおける糖尿病ビジネスの全世界の所有権が一元化され、当社のプライマリケアおよびスペシャリティケアにおける能力と、特に新興市場における、各国における営業力を活用することができます。本契約は、中核戦略領域であるとおもにアストラゼネカを成長に回帰させる重要な基盤である糖尿病の患者さんへのアストラゼネカの長期的なコミットメントを強化するものです。

Immunocore

2014年1月8日、アストラゼネカは英国に本社を置く株式非公開のバイオテクノロジー企業であるImmunocore社と、がんの共同研究およびライセンスに関する契約を締結したことを発表しました。

両社はImmunocore社の持つImmTAC (Immune Mobilising Monoclonal T-Cell Receptor Against Cancer) 技術を使用した新規がん治療薬の研究開発を行います。

このバイオ医薬品の基盤は病変細胞を見出し殺傷する体内の自己免疫力を活用します。ImmTACは患者のT細胞をがん細胞のみを破壊するよう誘導し、正常細胞への損傷を回避します。

本契約のもとImmunocore社とアストラゼネカのバイオ医薬品部門であるメディミューンは選択された標的とするがんに対するImmTACを共同開発します。アストラゼネカとメディミューンは自社の免疫介在がん治療薬ポートフォリオに加えるためにImmTAC製品を更に開発、商業化する権利を持ちます。本契約は各プログラムにつき2,000万ドルの契約一時金、各ターゲットプログラムの最大3億ドルの開発・商業化マイルストーンにおける支払いおよびプログラムが成功した場合の多額の段階的なロイヤリティの支払いを含みます。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率は全て恒常為替レート（CER）。

製品別、地域別の売上高の詳細な分析は財務諸表の追記11および12に示されています。

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2013年 100万ドル	2012年 100万ドル		2013年 100万ドル	2012年 100万ドル	
循環器						
クレストール	1,463	1,622	(8)	5,622	6,253	(8)
オングリザ	93	88	6	378	323	17
バイエッタ	54	47	17	206	74	181
ビデュリオン	49	26	88	151	37	308
Forxiga	3	-	n/m	10	-	n/m
Brilinta/Brilique	92	38	139	283	89	216
Atacand	134	202	(33)	611	1,009	(39)
セロケン/Toprol-XL	170	256	(32)	750	918	(18)
消化器						
ネキシウム	991	1,047	(3)	3,872	3,944	-
Losec/Prilosec (オメプラール)	122	156	(18)	486	710	(28)
呼吸器および炎症						
シムビコート	976	891	11	3,483	3,194	10
パルミコート	245	242	3	867	866	1
オンコロジー						
ゾラデックス	247	271	1	996	1,093	-
アリミデックス	86	122	(23)	351	543	(30)
カンデックス	95	112	(4)	376	454	(7)
イレッサ	158	160	5	647	611	11
フェソロデックス	182	175	6	681	654	6
ニューロサイエンス						
セロクエル	372	476	(22)	1,682	2,803	(39)
セロクエル IR	35	94	(64)	345	1,294	(72)
セロクエル XR	337	382	(12)	1,337	1,509	(12)
ゾーミッグ	35	39	(5)	134	182	(23)
Vimovo	24	18	39	91	65	42
感染症・その他						
シナジス	515	503	2	1,060	1,038	2
Merrem	77	106	(25)	293	396	(24)
FluMist	50	32	56	245	181	35

循環器

- 米国のクレストールの第4四半期の売上は10%減の7億7,900万ドル。これは、7%の総処方量減および在庫減と若干の実勢価格低下の影響によります。競合の激しい後発品市場において総処方量に対するクレストールのシェア（10.6%）は底堅いものです。クレストールの米国の通年売上は8%減の29億1,200万ドル。
- クレストールの米国以外の第4四半期の売上は6%減の6億8,400万ドル。これはオーストラリアとカナダでの独占権の失効を反映するものです。これらの市場を除く米国以外の売上は、中国の成長により、2%増。クレストールの米国以外の通年売上は、9%減の27億1,000万ドル。

ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との提携から生じる第4四半期のオングリザの提携収入は6%増の9,300万ドル。成長の大部分は米国以外で達成され、米国以外の売上は20%増の3,000万ドル。米国の第4

四半期の売上は横ばいの6,300万ドル。主にフォーミュラーポジションの低下によるシェアの低下により良好な価格の影響が相殺されました。

2013年12月の米国のDPP4市場の総処方量に占めるオングリザのマーケットシェアは2ポイント減の15.8%。これは主にフォーミュラーのポジションの低下によるもので、新規参入製品の影響は軽微でした。アストラゼネカの全世界の通年提携収入は17%増の3億7,800万ドル。

- *Forxiga*の提携収入は第4四半期300万ドル、通年では1,000万ドルでした。これはすべて2012年11月に承認され、その後医師の受け入れが良好なヨーロッパの業績ですが、価格償還が困難である環境が継続しています。
- *バイエッタ*および*ビデュリオン*のアストラゼネカの第4四半期の売上は1億300万ドル（うち、米国は7,600万ドル、米国以外で2,700万ドル）。米国以外では2013年4月にプロモーションを開始したため、2012年の売上はありませんでした。米国の*ビデュリオン*の総処方量は前年第4四半期比49%増。バイエッタの総処方量は前年同期比35%減。結果、エキセナチド・フランチャイズは前年同期比9%減。しかし、ビデュリオンの新規処方シェアの改善により直前の四半期との比較における四半期総処方量の減少は第4四半期に止まりました。全世界のエキセナチド製品の通年売上は3億5,700万ドル。
- *Brilinta/Brilique*の全世界の売上は、2013年第3四半期の7,500万ドルより増加し第4四半期は9,200万ドル。売上の半分以上は第4四半期の売上が前年比2倍以上に伸長したヨーロッパで達成されました。カナダ、オーストラリアおよび新興市場の業績も売上増に貢献しています。*Brilinta/Brilique*の全世界の通年売上は2億8,300万ドル。
- *Brilinta*の米国の第4四半期の売上は2013年第3四半期比33%増の2,400万ドル。第3四半期に計上した準備金調整の影響を除くと、調剤需要の17%増は売上増に沿ったものです。米国の2013年12月の*Brilinta*の総処方量は、growing more than a full share point in the yearの1.85%増。この成長は6.8%の新規処方シェアによりけん引されましたが、この成長はPLATO試験に関連したCivil Investigative Demandが発表される前から加速していました。当社は調査に全面的に協力するとともに、PLATO試験の完璧性を確信しています。2013年通年の*Brilinta*の売上は7,300万ドル。
- *Atacand*の米国の第4四半期の売上は69%減の1,000万ドル。これは2つの剤形双方に後発品の競合が生じたことによります。通年売上は52%減の7,200万ドル。
- *Atacand*の米国以外の第3四半期の売上は26%減の1億2,400万ドル。これは主に先進国での独占権失効と新興市場の売上微減によります。*Atacand*の米国以外の通年売上は36%減の5億3,900万ドル。
- 自社後発品の売上を含む*Toprol-XL*製品レンジの米国の第4四半期の売上は、81%減の1,900万ドル。これは2012年4番目の後発品発売後に生じた処方量の低下と価格下落によります。米国の通年売上は59%減の1億3,100万ドル。
- *セロケン*の米国以外の第4四半期の売上は3%減の1億5,100万ドル。*セロケン*の米国以外の通年売上は5%増の6億1,900万ドル。

消化器

- *ネキシウム*の米国の第4四半期の売上は前年同期比9%減の5億4,500万ドル。小売部門の調剤量は約11%減。*ネキシウム*の
- 様々な特許訴訟が和解した結果、後発品企業数社が2014年5月27日にそれぞれのエソメプラゾール後発品をもって米国市場にも参入し得ます。当社の標準的な対応として、最初の後発品発売時に*ネキシウム*の推定流通在庫に対する返品準備金が計上される“需要売上”に基づき売上を認識するようになります。従って、*ネキシウム*の2014年の売上は、この会計処理、在庫減の影響を反映しています。
 - *ネキシウム*の米国以外の第4四半期の売上は5%増の4億4,600万ドル。ヨーロッパの売上は主に後発品の競合により12%減。米国以外の売上は、日本の売上が倍増したことにけん引され、30%増。新興市場の売上は、中国の29%成長を他の市場の減少が上回り、5%減。*ネキシウム*の米国以外の市場の通年売上は10%増の17億4,900万ドル。

- Losec (オメプラール) の米国以外の第4四半期の売上は、日本の大幅な売上減により20%減の1億1,500万ドル。全世界の通年売上は28%減の4億8,600万ドル。

呼吸器および炎症

- シムビコート[®]の米国の第4四半期の売上は前年同期比28%増の3億5,000万ドル。定量配合剤の市場がほぼ横ばいであるのに対し、シムビコート[®]の総処方量は17%増。定量配合剤の処方量合計に占めるシムビコート[®]のシェアは、2012年12月から3.9ポイント増加して、2013年12月に35.3%に達しました。新規配合剤治療の新規患者での市場シェアは2012年12月から6.8ポイント増加して、2013年12月は35.33%。シムビコート[®]の米国の通年売上は23%増の12億3,300万ドル。
- シムビコート[®]の米国以外の第4四半期の売上は3%増の6億2,600万ドル。これは、中国の122%増にけん引され、新興国市場が21%成長したことによります。報告ベースの日本の売上が5%減少したのは、販売提携先への出荷のタイミングを反映して物であり、日本のマーケットシェアは年初から3.8ポイント増。日本以外の既成市場の売上はほぼ横ばいでした。シムビコート[®]の米国以外の通年売上は4%増の22億5,000万ドル。
- パルミコート[®]の米国の第4四半期の売上は5%増の5,900万ドル。通年売上は4%減の2億2,400万ドル。
- パルミコート[®]の米国以外の第4四半期の売上高は、主に中国の売上が28%増加したことにより、2%増の1億8,600万ドル。パルミコート[®]の米国以外の通年売上は前年比3%増の6億4,300万ドル。

オンコロジー

- アリミデックス[®]の全世界の通年売上は、独占権失効の結果30%減の3億5,100万ドル。全世界の売上の38%を占める日本の売上は通年で28%減。米国の売上は総売上の2%未満。
- カンデックス[®]の通年売上は7%減の3億7,600万ドル。全世界の売上の57%を占める日本の売上は通年で10%減。
- イレッサ[®]の第4四半期の売上は5%増の1億5,800万ドル。日本の第4四半期の売上は横ばいでしたが、通年で7%増加し、全世界の売上の29%を占めます。新興市場の第4四半期の売上は11%増。これは、全世界の通年売上の20%を占める中国の売上が、第4四半期11%増加したことによります。イレッサ[®]の全世界の通年売上は11%増の6億4,700万ドル。
- フェソロデックス[®]の全世界の売上は第4四半期および通年で6%増。全世界の通年売上6億8,100万ドルは、米国の堅調な売上（5%増の3億2,400万ドル）と日本（24%増）や南米（26%増）などの米国以外の市場の力強い成長により達成されました。

ニューロサイエンス

- セロクエルIR[®]の米国の通年売上はマイナス1,700万ドル。これは、Medicaid債務に関わるマイナス調整および通年売上を上回る推定流通在庫の引当金によるものです。
- セロクエルXR[®]の米国の第4四半期の売上は9%減の1億9,400万ドル。セロクエルXR[®]の総処方量は6%減。セロクエルXR[®]の総処方量に占めるシェアは、2012年3月末のクエチアピンIR後発品の発売後の減少に歯止めがかかり、安定的に4.2%で推移する兆候が見られます。セロクエルXR[®]の米国の通年売上は8%減の7億4,300万ドル。
- セロクエルIR[®]の米国以外の第4四半期の売上は50%減の5,400万ドル。これは第4四半期に生じた流通在庫の価格譲歩に関連する日本の提携会社の発注パターンによるものです。米国以外のセロクエルIR[®]の通年売上は36%減の3億6,200万ドル。
- セロクエルXR[®]の米国以外の第4四半期の売上は17%減の1億4,300万ドル。既成市場（ヨーロッパおよびその他の既成市場）の売上は23%減。これは、フランスの成長を上回るレベルで、EU数カ国でおきた特許無効申し立てと「リスクのある」後発品発売に伴い、いくつかの市場で売上が減少したためです。セロクエルXR[®]の米国以外の通年売上は15%減の5億9,400万ドル。
- Vimovo[®]の第4四半期の売上は2,400万ドル（うち300万ドルが米国、2,100万ドルが米国以外）。当社は2013年11月にVimovo[®]の米国の権利を売却しました。全世界の通年売上は9,100万ドル。

感染症・その他

- シナジスの米国の第4四半期の売上は1%減の3億ドル。米国以外の第4四半期の売上は8%増の2億1,500万ドル。全世界の通年売上は2%増の10億6,000万ドル。
- Merremの通年売上は、多くの市場で後発品が競合した結果、24%減の2億9,300万ドル。
- FluMistの第4四半期の売上は5,000万ドル（うち2,200万ドルが米国、2,300万ドルが英国）。全世界の通年売上は35%増の2億4,500万ドル。FluMist Quadrivalent/Fluenz 発売後の良好な受け入れを反映し米国の売上が1億9,900万ドルに達するとともに、英国ではワクチン接種政策プログラムが効果的に実施され、売上は3,800万ドルでした。

地域別売上高

	第4四半期		前年同期比(%)		通年		前年同期比(%)	
	2013年	2012年			2013年	2012年		
	100万ドル	100万ドル	実質	CER	100万ドル	100万ドル	実質	CER
米国	2,634	2,823	(7)	(7)	9,691	10,655	(9)	(9)
ヨーロッパ ¹	1,822	1,790	2	(2)	6,658	7,143	(7)	(9)
ROWの既成市場 ²	1,023	1,347	(24)	(10)	3,973	5,080	(22)	(10)
日本	668	860	(22)	(4)	2,485	2,904	(14)	4
カナダ	161	209	(23)	(19)	637	1,090	(42)	(40)
その他のROWの既成市	194	278	(30)	(23)	851	1,086	(22)	(18)
新興市場 ³	1,365	1,322	3	6	5,389	5,095	6	8
中国	477	384	24	21	1,840	1,512	22	19
合計	6,844	7,282	(6)	(4)	25,711	27,973	(8)	(6)

¹ヨーロッパを構成するのは、西ヨーロッパおよびそのほかのROW（米国・西ヨーロッパ以外の地域）の新興市場として報告されていた多くの市場です。

²ROWの既成市場を構成するのは、カナダ、日本、オーストラリアおよびニュージーランドです。

³ROWの新興市場を構成するのは、ブラジル、中国、インド、メキシコ、ロシア、およびトルコを含む上記以外の全ての地域です。

- 米国の第4四半期の売上は7%減でした。これは主にAtacandとToprol-XLフランチャイズの後発品との競合によるものです。シムビコートとBrilintaの売上は力強く成長しましたが、それ以上にネキシウムの数量ベースの売上が引き続き減少しました。また、ネキシウムとクレストールはMedicare Coverage Gapの債務の調整によりマイナスの影響を受けました。
- ヨーロッパの第4四半期の売上は2%減でした。BriliqueとSynagisは大部分の市場で売上が増加し、英国のFluenzの売上も増加しましたが、セロクエル、Atacand、ネキシウムおよびMerremを含む数製品の後発品との競合による売上減少がそれを上回りました。
- ROWの既成市場の第4四半期の売上は10%減でした。この減少分の大半はオーストラリアでのクレストールとAtacand、カナダでのセロクエルXR、ネキシウムおよびクレストールの後発品との競合によるものです。日本の売上は、ネキシウムの売上増をオメプラールとセロクエルIRの売上減が上回ったため、4%減でした。
- 新興市場の第4四半期の売上は6%増。これは、クレストール、パルミコートおよびネキシウムの力強い売上により中国の売上が21%伸長したことにけん引されたためです。韓国の売上は17%増。新興市場の第4四半期の売上はメキシコの在庫調整により影響を受けました。これらの調整を除くと新興市場の第4四半期の売上は8%増。

要約連結包括利益計算書

12月31日までの1年間	2013年 100万ドル	修正表示* 2012年 100万ドル
売上高	25,711	27,973
売上原価	(5,261)	(5,393)
売上総利益	20,450	22,580
物流費	(306)	(320)
研究開発費**	(4,821)	(5,243)
販売・一般管理費**	(12,206)	(9,839)
その他営業損益	595	970
営業利益	3,712	8,148
金融収益	50	42
金融費用	(495)	(544)
税引前利益	3,267	7,646
税金	(696)	(1,376)
当期利益	2,571	6,270
その他の包括利益		
<i>利益または損失として再分類されない項目</i>		
再算定した確定給付負債	8	(13)
利益または損失として再分類されない税金	(82)	(65)
	(74)	(78)
<i>今後利益または損失として再分類される可能性のある項目</i>		
連結に伴う為替換算損益	(166)	106
純投資ヘッジのための借入金における為替差損益	(58)	(46)
純投資ヘッジで指定された金融派生商品における公正価値の変動	111	76
キャッシュ・フローヘッジの損失の償却	1	1
売却可能金融資産評価利益	69	72
今後利益または損失として再分類される可能性のある税金	4	4
	(39)	213
当期包括利益（税引後）	(113)	135
当期包括利益合計	2,458	6,405
当期利益の帰属		
親会社の所有者	2,556	6,240
非支配持分	15	30
	2,571	6,270
包括利益合計の帰属		
親会社の所有者	2,470	6,395
非支配持分	(12)	10
	2,458	6,405
額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$2.04	\$4.95
希薄化後額面 0.25 ドル普通株式 1 株あたり利益	\$2.04	\$4.94
加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,252	1,261
希薄化後加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,254	1,264

* IAS 19（2011）に関連する修正再表示は注記 1 を参照。

**2013 年に、会社は研究開発費用において 1 億 3,800 万ドルと販売・一般管理費において 16 億 2,000 万ドルの Bydurion に関連する無形固定資産の減損を認識しました。

要約連結包括利益計算書

12月31日までの第4四半期	2013年 100万ドル	修正再表示* 2012年 100万ドル
売上高	6,844	7,282
売上原価	(1,440)	(1,398)
売上総利益	5,404	5,884
物流費	(72)	(79)
研究開発費**	(1,429)	(1,320)
販売・一般管理費**	(4,642)	(2,669)
その他営業損益	148	148
営業利益	(591)	1,964
金融収益	13	15
金融費用	(137)	(143)
税引前利益	(715)	1,836
税金	195	(316)
当期利益	(520)	1,520
その他の包括利益		
<i>利益または損失として再分類されない項目</i>		
再算定した確定給付負債	247	145
利益または損失として再分類されない税金	(44)	(47)
	203	98
<i>今後利益または損失として再分類される可能性のある項目</i>		
連結に伴う為替換算損益	(26)	(109)
純投資ヘッジのための借入金における為替差損益	(35)	(21)
純投資ヘッジで指定された金融派生商品における公正価値の変動	51	76
売却可能金融資産評価利益（損失）	10	33
今後利益または損失として再分類される可能性のある税金	3	1
	3	(20)
当期包括利益（税引後）	206	78
当期包括利益合計	(314)	1,598
当期利益の帰属：		
親会社の所有者	(524)	1,507
非支配持分	4	13
	(520)	1,520
包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	(315)	1,603
非支配持分	1	(5)
	(314)	1,598
額面0.25ドル普通株式1株当たり利益	(\$0.42)	\$1.21
希薄化後額面0.25ドル普通株式1株当たり利益	(\$0.42)	\$1.21
加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,254	1,246
希薄化後加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,256	1,248

* IAS 19（2011）に関連する修正再表示は注記1を参照。

2013年に、会社は研究開発費用において1億3,800万ドルと販売・一般管理費において16億2,000万ドルのByduronに関連する無形固定資産の減損を認識しました。

要約連結財政状態計算書

	2013年 12月31日 時点	修正 再表示* 2012年 12月31日 時点
資産		
非流動資産	5,818	6,089
有形固定資産	9,981	9,898
営業権	16,047	16,448
無形固定資産	365	389
金融派生商品	281	199
その他の投資	1,867	352
その他の債権	1,205	1,111
繰延税金資産	35,564	34,486
流動資産	1,909	2,061
棚卸資産	7,879	7,629
売掛金およびその他の債権	796	823
その他の投資	40	31
金融派生商品	494	803
未収法人所得税	9,217	7,701
現金および現金同等物	20,335	19,048
	55,899	53,534
資産合計		
負債		
流動負債	(1,788)	(901)
有利子負債・借入金	(10,362)	(9,221)
買掛金およびその他の債務	(2)	(3)
金融派生商品	(823)	(916)
引当金	(3,076)	(2,862)
未払法人所得税	(16,051)	(13,903)
非流動負債	(8,588)	(9,409)
有利子負債・借入金	(1)	-
繰延税金負債	(2,827)	(2,576)
退職給付債務	(2,261)	(2,271)
引当金	(566)	(428)
その他の債務	(2,352)	(1,001)
	(16,595)	(15,685)
負債合計	(32,646)	(29,588)
純資産	23,253	23,946
資本		
親会社の所有者に帰属する資本金および準備金		
資本金	315	312
株式払込剰余金	3,983	3,504
その他の積立金	1,966	1,960
利益剰余金	16,960	17,955
	23,224	23,731
非支配持分	29	215
資本合計	23,253	23,946

* IAS 19 (2011) に関連する修正再表示は注記 1 を参照。

要約連結キャッシュ・フロー計算書

12月31日までの1年間	2013 \$m	Restated* 2012 \$m
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前利益	3,267	7,646
金融収益および費用	445	502
減価償却費、償却費および減損損失	4,583	2,518
運転資本および短期引当金の減少（増加）	166	(706)
非現金その他の変動	258	(424)
営業活動から得られたキャッシュ	8,719	9,536
支払利息	(475)	(545)
支払税金	(844)	(2,043)
営業活動による正味キャッシュ・インフロー	7,400	6,948
投資活動によるキャッシュ・フロー		
短期投資および固定性預金の変動	130	3,619
有形固定資産の取得	(742)	(672)
有形固定資産の売却	69	199
無形固定資産の取得	(1,316)	(3,947)
無形固定資産の売却	35	-
非流動投資の取得	(91)	(46)
非流動投資の売却	38	43
事業活動の買収	(1,158)	(1,187)
受取配当金	-	7
受取利息	114	145
子会社による非支配持分に対する支払	(10)	(20)
子会社による非支配持分からの受取	42	-
投資活動による正味キャッシュ・アウトフロー	(2,889)	(1,859)
財務活動前の正味キャッシュ・インフロー	4,511	5,089
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	482	429
自社株式の取得による支出	-	(2,635)
借入金の発行	-	1,980
借入金の払戻し	-	(1,750)
支払配当金	(3,461)	(3,665)
支払配当金に関連するヘッジ契約	(36)	48
ファイナンスリースの債務の弁済	(27)	(17)
短期借入金の変動	(5)	687
財務活動による正味キャッシュ・アウトフロー	(3,047)	(4,923)
当期現金および現金同等物の正味増加（減少）額	1,464	166
現金および現金同等物期首残高	7,596	7,434
為替変動による影響	(65)	(4)
現金および現金同等物期末残高	8,995	7,596
現金および現金同等物の内訳：		
現金および現金同等物	9,217	7,701
当座貸越	(222)	(105)
	8,995	7,596

* IAS 19（2011）に関連する修正再表示は注記1を参照。

要約連結持分変動計算書

	資本金 100万ドル	株式払込 剰余金 100万ドル	その他の 積立金* 100万ドル	利益剰余金 100万ドル	合計 100万 ドル	非支配持分 100万ドル	資本合計 100万ドル
2012年1月1日時点**	323	3,078	1,951	17,888	23,240	226	23,466
当期利益**	-	-	-	6,240	6,240	30	6,270
その他の包括利益**	-	-	-	155	155	(20)	135
その他の積立金への振替	-	-	(5)	5	-	-	-
所有者との取引：							
配当金	-	-	-	(3,619)	(3,619)	-	(3,619)
普通株式の発行	3	426	-	-	429	-	429
自己株式の取得	(14)	-	14	(2,635)	(2,635)	-	(2,635)
株式報酬	-	-	-	(79)	(79)	-	(79)
非支配持分から支払債務への振替	-	-	-	-	-	(10)	(10)
非支配持分に対する 配当金	-	-	-	-	-	(11)	(11)
純変動	(11)	426	9	67	491	(11)	480
2012年12月31日時点**	312	3,504	1,960	17,955	23,731	215	23,946
	資本金 100万ドル	株式払込 剰余金 100万ドル	その他の 積立金* 100万ドル	利益剰余金 100万ドル	合計 100万 ドル	非支配持分 100万ドル	資本合計 100万ドル
2013年1月1日時点**	312	3,504	1,960	17,955	23,731	215	23,946
当期利益	-	-	-	2,556	2,556	15	2,571
その他の包括利益	-	-	-	(86)	(86)	(27)	(113)
その他の積立金への振替	-	-	6	(6)	-	-	-
所有者との取引：							
配当金	-	-	-	(3,499)	(3,499)	-	(3,499)
普通株式の発行	3	479	-	-	482	-	482
株式報酬	-	-	-	(57)	(57)	-	(57)
非支配持分から支払債務への振替	-	-	-	-	-	(6)	(6)
非支配持分に対する 配当金	-	-	-	-	-	(3)	(3)
非支配持分への売却	-	-	-	97	97	(165)	(68)
純変動	3	479	6	(995)	(507)	(186)	(693)
2013年12月31日時点	315	3,983	1,966	16,960	23,224	29	23,253

* その他の積立金には、資本償還準備金や合併準備金が含まれます。

** IAS 19 (2011) に関連する修正再表示は注記 1 を参照。

期中財務諸表の注記

1 表示の基礎および会計方針

これらの 2013 年 12 月 31 日までの 1 年間の無監査要約連結期中財務諸表（「期中財務諸表」）は、欧州連合（EU）によって採択され、国際会計基準審議会（IASB）によって発行された IAS 34 *中間財務報告* に従って作成されました。グループの年次財務諸表は、欧州連合によって採択され、国際会計基準審議会によって発行された国際財務報告基準（IFRS）に従って作成されました。また、2012 年度のアストラゼネカ PLC のアニュアルレポートおよび米国証券取引委員会（SEC）への提出書類 Form 20-F で使用された会計方針に大きな変更はありません。

2013 年 1 月 1 日より、アストラゼネカグループ（以下、グループ）は、IAS 19 *従業員給付* への改正を採用しています。IAS19（2011）では、グループが今年度初めの時点における退職給付債務の計算に使用する割引率を適用して、退職給付債務における正味金融費用を決定します。従って、「金融費用」における正味費用は指定した給付債務における支払利息、年金資産における受取利息、資産の上限に適用される利息により構成されます。以前は、グループが期待収益の長期金利に基づき年金資産における受取利息を決定し、「金融収益」として報告していました。上述の割引率を適用した結果、前四半期の正味金融費用は 7,200 万ドル増加、その他の包括利益は 7,200 万ドル減少と修正再表示されました。この改正の採用に伴い、これまで従業員の残り勤続年数であるとして勤務費用（Service cost）として認識されていなかった過去の勤務費用が内部留保に遡及的に認識され、グループの純資産は 600 万ドル減少しました。

また、グループは 2011 年に発表された、改正された IAS1 *その他の包括利益の項目の表示* を採用し、その他の包括利益の項目の表示を変更しました。さらに、2013 年 1 月 1 日より、IAS27 *個別財務諸表* および IAS28 *関連会社に対する投資* の改正に伴い IFRS10 *連結財務諸表*、IFRS11 *ジョイント・アレンジメント*、IFRS12 *他の企業に対する持分の開示*、IFRS13 *公正価値測定* を採用したほか、IAS 27 *連結および個別財務諸表* と IAS 28 *関連会社に対する投資*、および改正された IFRS7 *金融商品：開示における相殺権のある金融資産・負債の開示* についても採用しました。IFRS13 の採用による注記 9 にある金融商品に関する詳細情報を除いて、これらの採用によるグループの最終報告、純資産、または開示への影響はありません。

注記 10 に含まれる情報は、2012 年度のグループのアニュアルレポート、米国証券取引委員会（SEC）への提出書類 20-F に記載された法的手続きと偶発債務に関する開示情報の業績を更新するものです。

グループは多くの財源を保有しています。2013年12月31日現在、グループの金融資産は104億ドル（現金残高92億ドル、2018年4月まで使用可能な契約に基づく未使用の銀行借入枠30億ドル、1年以内に返済期限が到来する負債18億ドル）でした。グループ売上の大半は、特許有効期間中の製品によるものであり、キャッシュの流入は比較的底堅く、予測可能な状況ですが、中期的には引き続き売上が特許失効の影響を大きく受けると予想しています。さらに、成熟市場の多くで、昨今の予算抑制に伴う政府による価格介入を受けて、売上にマイナスの影響が生じる見通しです。一方、近年発売した製品および開発中の製品から新たな売上を見込んでいます。また、グループはさまざまな地域に幅広い顧客とサプライヤーを擁しています。結果として、取締役会は、現在の経済見通しは不確実ですが、全体として、グループがビジネスリスクを管理できる状態にあると考えています。

取締役は、上記段落の結論及び調査を経て、当社とグループが予見可能な未来において事業を継続するために十分な資源を保持しているものと予測しています。従って、期中財務諸表は継続企業的前提で作成されています。

期中財務諸表に含まれる財務情報はグループの2013年と2012年の会計年度の法定計算書類とはなりません。2012年の法定計算書類は株式登録機関に提出されており、2013年の法定計算書類は今後提出されます。これらの法定決算はグループの監査人によって報告され、株式登録機関に提出されました。監査人の報告は、(i) 無限定適正であり、(ii) 監査人が報告に限定を加えることなく強調して注意を促したい事項はなく、(iii) 2006年会社法の498節(2)または(3)の規定に該当する事項を含まないものでした。

2 正味資金

以下の表では、正味資金を分析し、正味資金の変動に応じて正味キャッシュ・フローを調整しています。

	2013年 1月1日時点 100万ドル	キャッシュ・フロー 100万ドル	非現金変動 100万ドル	為替変動 100万ドル	2013年 12月31日 現在 100万ドル
1年超返済予定長期借入金	(9,347)	-	888	(57)	(8,516)
1年超返済予定ファイナンスリース	(62)	-	(10)	-	(72)
長期負債合計	(9,409)	-	878	(57)	(8,588)
1年内返済予定長期借入金	-	-	(766)	-	(766)
1年内返済予定ファイナンスリース	(22)	27	(35)	-	(30)
流動負債合計	(22)	27	(801)	-	(796)
その他の投資－短期	823	(130)	88	15	796
正味金融派生商品	417	36	(51)	-	402
現金および現金同等物	7,701	1,578	-	(62)	9,217
当座貸越	(105)	(114)	-	(3)	(222)
短期借入金	(774)	5	-	(1)	(770)
	8,062	1,375	37	(51)	9,423
正味（負債）／資金	(1,369)	1,402	114	(108)	39

当期の非現金変動には、IAS 39に規定された公正価値調整が含まれます

3 事業再構築費用

2013年12月31日までの1年間の税引前利益は、14億2,100万ドルの事業再構築費用（2013年第4四半期は3億8,500万ドル）を含めて計上しています。以下の項目で、利益から控除されています。

	2013年 第4四半期 100万ドル	2012年 第4四半期 100万ドル	2013年 通年 100万ドル	2012年 通年 100万ドル
売上原価	22	61	126	136
研究開発費	84	94	490	791
販売・一般管理費	279	243	805	631
合計	385	398	1,421	1,558

4 PEARL THERAPEUTICS 社の買収

2013年6月27日、アストラゼネカは Pearl Therapeutics 社の買収を完了しました。Pearl 社はカリフォルニア州レッドウッドシティに本社を置く、呼吸器疾患における低分子吸入治療薬の開発に重点を置いている会社です。アストラゼネカは契約一時金 5 億 6,900 万ドルで Pearl 社株の 100%を取得しました。さらに、固定用量の三剤配合剤およびアストラゼネカが Pearl 社の技術基盤を利用して開発する選択した製品における特定の開発および承認申請マイルストーンが達成されるごとに、Pearl 社には追加で最大 4 億 5,000 万ドルが支払われます。売上に関しては、既定の段階的売上マイルストーン達成ごとに、さらに最大で 1 億 4,000 万ドルが支払われます。偶発的対価は、成功の確率や遅延の可能性等の重要なインプットを考慮したディシジョンツリー分析を用いて公正に査定されています。

ほとんどの事業買収には、会計上識別可能資産および負債に属さない取得費用が一部あり、営業権として認識されます。Pearl 社の買収では、決算個別には定量化できない多くの要素によって営業権が構成されています。これらのうち最も重要なものは、Pearl 社の従業員を獲得することによる相乗的な利益で、従業員のスキルとノウハウは現在進行中の開発プログラムを最良の形で完了するためには必要不可欠なものです。

Pearl 社の業績は 2013年6月27日より当社の業績に統合されました。買収から 2013年12月31日までの期間における Pearl 社の収入はなく損失は 4,900 万ドルでした。

2013年12月31日までの1年間において Pearl 社に売上はなく、純損失は 8,100 万ドルでした。

買収以降、Pearl 社の過去に認識されていなかった税金の繰越欠損金の回収可能性に関する新情報を入手し、Pearl 社買収に伴う 6,000 万ドルの繰延税金資産が明らかになりました。買収日に明らかになった新情報により示された事実と状況に関して、その後変更はありません。従って、2013年6月30日までの上半期実績で開示された買収の会計項目を調整し、繰延税金資産の公正価値を 3,000 万ドル増額、それに伴い、営業権の公正価値を 3,000 万ドル減額しました。修正後の買収仕訳は以下の通りです。

	帳簿価格 100 万ドル	公正価値 調整 100 万ドル	公正価値 100 万ドル
非流動資産			
無形固定資産	-	985	985
繰延税金資産	-	60	60
	-	1,045	1,045
流動資産	12	-	12
流動負債	(4)	-	(4)
非流動負債			
繰延税金負債	-	(379)	(379)
	-	(379)	(379)
買収した総資産	8	666	674
営業権			44
買収金額の公正価値			718
差引額：偶発的対価公正価値			(149)
契約一時金合計			569
差引額：買収した現金および現金同等物			(4)
正味キャッシュ・アウトフロー			565

5 OMTHERA PHARMACEUTICALS 社の買収

2013年7月18日、アストラゼネカは Omthera Pharmaceuticals 社の買収を完了しました。Omthera 社はニュージャージー州プリンストンに本社を置く、血中の脂質レベルに異常が見られる「脂質異常症」の新規治療薬の開発と商業化に注力しているスペシャリティー製薬企業です。アストラゼネカは、3億2,300万ドルで Omthera 社株の100%を取得し、さらに、将来開発および承認申請マイルストーン達成に伴い最大1億2,000万ドルを支払います。偶発的対価は、成功の確率や遅延の可能性等の重要なインプットを考慮したディシジョンツリー分析を用いて公正に査定されています。

Omthera 社の業績は、2013年7月18日より当社の業績に連結されています。買収から2013年12月31日までの期間、Omthera 社に売上はなく、純損失は1,000万ドルでした。

2013年12月31日までの1年間において Omthera 社に売上はなく、純損失は3,300万ドルでした。

	帳簿価格 100万ドル	公正価値修正 100万ドル	公正価値 100万ドル
非流動資産			
無形固定資産	-	526	526
繰延税金資産	-	18	18
	-	544	544
流動資産	67	-	67
流動負債	(10)	-	(10)
非流動負債			
繰延税金負債	-	(216)	(216)
	-	(216)	(216)
買収した総資産	57	328	385
営業権			-
買収金額の公正価値			385
差引額：偶発的対価公正価値			(62)
契約一時金合計			323
差引額：買収した現金および現金同等物			(63)
正味キャッシュ・アウトフロー			260

6 AMPLIMMUNE 社の買収

2013年10月4日、アストラゼネカはAmplimmune社の買収を完了しました。Amplimmune社は米国メリーランド州に本社を置くがん免疫治療の新たな治療法に特化した株式非上場のバイオ医薬品企業です。アストラゼネカは最初の支払いとして2億2,500万ドルでAmplimmune社株の100%を取得し、今後、既定の開発マイルストーン達成に伴い最大で2億7500万ドルを支払います。偶発的対価は、成功の確率や遅延の可能性等の重要なインプットを考慮したディシジョンツリー分析を用いて公正に査定されています。

当該買収によりアストラゼネカのオンコロジーパイプラインが補強されます。Anti-programmed cell death 1 (PD-1) monoclonal antibody (mAb) のAMP-514を含む複数の免疫介在性がん治療薬の早期開発段階ポートフォリオが追加されました。AMP-514は後期前臨床開発段階で2013年中の治験薬 (IND) 申請を行うことを目指していましたが、この目標はすでに達成されました。他のAmplimmune社のプロジェクトにはB7パスウェイを標的にする複数の前臨床段階の分子があります。

事業買収においては、会計上、識別可能資産および負債に属さない取得費用が一部あり、営業権として認識されます。Amplimmune社の買収では、この営業権には個別に定量化できない要素が多く含まれていますが、Amplimmune社のオンコロジー、免疫学、感染症、研究ツールや動物モデルの分野において潜在的な可能性のある早期プログラムが含まれています。

Amplimmune社の業績は、2013年10月4日より当社の業績に連結されます。買収から2013年12月31日まで期間Amplimmune社に売上はなく、純損失は500万ドルでした。

2013年9月30日までの1年間においてAmplimmune社に売上はなく、純損失は2,700万ドルでした。

	帳簿価格 100万ドル	公正価値修正 100万ドル	公正価値 100万ドル
非流動資産			
無形固定資産	-	534	534
有形固定資産	7	-	7
繰延税金資産	-	14	14
	7	548	555
流動資産	17	-	17
流動負債	(8)	-	(8)
非流動負債			
繰延税金負債	-	(219)	(219)
	-	(219)	(219)
買収した総資産	16	329	345
営業権			33
買収金額の公正価値			378
差引額：偶発的対価公正価値			(153)
契約一時金合計			225
差引額：買収した現金および現金同等物			(17)
正味キャッシュ・アウトフロー			(75)
			133

7 SPIROGEN 社の買収

2013年10月15日、アストラゼネカは Spirogen 社の買収を完了しました。Spirogen 社はがん領域の抗体-薬物複合体技術に特化した株式非上場のバイオテック企業です。アストラゼネカはまず2億ドルで Spirogen 社株の100%を取得しました。その後、既定の開発マイルストーン達成に伴い最大で2億4000万ドルを支払います。既存のアウトライセンシング契約およびそれらに伴う収入は当該買収から除外されています。偶発的対価は、成功の確率や遅延が生じる可能性といった重要なインプットを考慮したディシジョンツリー分析を用いて公正に査定されています。

当社は ADC Therapeutics 社と同社の前臨床開発段階にある抗体-薬物複合体プログラムのうち2つを共同開発する契約も締結しました。当社は、Spirogen 社と既存のライセンス契約を有する ADC Therapeutics 社への出資も行います。

Spirogen 社の業績は、2013年10月15日より当社の業績に連結されます。買収から2013年12月31日までの期間 Spirogen 社に売上はなく純損失は軽微でした。

2013年12月31日までの1年間に Spirogen 社に売上はなく、純損失は900万ドルでした。

	帳簿価格 100万ドル	公正価値修正 100万ドル	公正価値 100万ドル
非流動資産			
無形固定資産	1	370	371
有形固定資産	1	-	1
	2	370	372
非流動負債			
繰延税金負債	-	(4)	(4)
買収した総資産	2	366	368
営業権			-
買収金額の公正価値			368
差引額：偶発的対価公正価値			(168)
差引一時金合計			200
差引額：買収した現金および現金同等物			-
正味キャッシュ・アウトフロー			200

8 グローバル糖尿病アライアンス資産のBMS持ち分の取得

2014年2月1日、アストラゼネカはBMSとの糖尿病アライアンスのBMSの権利の取得を完了しました。この取得によりアストラゼネカは糖尿病事業の知的財産およびその開発、製造および商業化の全世界の権利の所有者となりました。この糖尿病事業に含まれる製品：オングリザ(サクサグリブチン)、Kombiglyze XR(サクサグリブチンとメトホルミン塩酸塩徐放製剤)、Komboglyze(サクサグリブチンとメトホルミン塩酸塩)、Farxiga(米国以外の製品名：Forxiga)、パイエツタ(エキセナチド)、ビデュリオン(持続性エキセナチド注射剤)、metreleptin and Symlin(プラムリンチド酢酸塩)

この取引により、糖尿病事業の全世界の所有権をアストラゼネカに一元化し、当社のプライマリケアとスペシャリティケア領域における能力と、グローバルネットワーク、特に新興市場におけるネットワークを活用します。この取引は Amylin Pharmaceutical, LLC の全株式資本の買収、および、アストラゼネカが未だ所有していなかった Onglyza, Kombiglyze XR, Komboglyze and Farxiga の知的財産ならびに開発、製造および商業化の全世界の権利の取得を含みます。また、総勢約4,100人のBMSの従業員がこの取得の一部としてアストラゼネカに移籍します。この無形資産である製品の権利と熟練した人員と関連業務プロセスを伴う製造施設双方の取得は、IFRS3 Business Combinations に準じて、会計上企業統合として処理される必要があります。

取得一時金27億ドルは2014年2月1日に支払われました。今後、承認、発売および売上関連の最大14億ドルの支払いが発生します。また、アストラゼネカは2025年までの様々な売上関連ロイヤリティの支払いに同意しました。本契約のもとで支払われるロイヤリティの金額は、将来の売上に直接リンクしていること、および結果のレンジを正確に推定することは不可能なことから、本質的に不確定であり、予測困難です。各年の支払い額の上限は正味売上に関連しています。アストラゼネカは、一定の資産が今後承継された場合最大2億2,500万ドルの支払いを行う可能性があります。偶発的対価は、成功の確率や遅延の可能性等の重要なインプットを考慮したディシジョンツリー分析を用いて公正に査定されています。IFRS3に準じて、将来のロイヤリティを含む偶発的対価の公正価格は直ちに債務として認識されています。

取得した権利に加え、アストラゼネカは糖尿病製品フランチャイズ全体の製造およびサプライチェーンを維持するため BMS といくつかの契約を締結しました。また、BMS は現行の臨床試験計画に沿って特定の臨床試験を実施します。これに関連し、糖尿病ポートフォリオを前進させるとともに当該部門の移行をサポートするために研究開発および製造部門の同意された人数の BMS の社員は糖尿病を専門に担当します。これらの決定事項はアストラゼネカから BMS への今後の支払いにより実行され、必要に応じて拡大されます。これらの決定事項について最初の取得会計においては具体的な金額は認識されておらず、IFRS3 に準じた公正価格において企業統合買収会計には含まれていません。

本契約は、今回の取得に関連して、既に終了した Onglyza および Farxiga に関する提携契約に基づく発売・売上関連マイルストーンの支払いを一部反映しています。以前に存在したこれらのマイルストーンの推定価値 3 億ドルは支払いとは別の要素として認識されており、IFRS3 に準じた事業統合会計からは除外されています。別の無形資産は認識されています。

16 億ドルの販売権は、多くの要素に基づき査定されましたが、個別には数値化できませんが、大きな要素は、より効率的な製造プロセスにより生み出すことができるとアストラゼネカが期待する相乗効果および、このアライアンスを全面的にコントロールすることで得られた戦略上および業務上の独立により実現可能になった価値の向上です。

今回の取得の一部として獲得した受け取り債権の公正価格は、契約上の総額受け取り金額と同等です。回収が見込めない多額の債権はありません。

本糖尿病アライアンスの更なる権利取得の結果は、2014 年 2 月 1 日から当社の業績に連結されます。

財務諸表の承認日と今回の取引の完了日が近かったことから、本取引の会計上の情報の最終化は未だ完了していません。取得した資産および債務の公正価値、および支払い可能な金額の公正価値の暫定的査定は下記に示されています。当社の査定は 2014 年中に完了します。

	公正価値 100 万ドル
非流動資産	
無形固定資産	5,762
有形固定資産	490
	6,252
流動資産	478
流動負債	(262)
非流動負債	(130)
買収した総資産	6,338
営業権	1,565
買収金額の公正価値	7,903
差引額：偶発的対価公正価値	(5,205)
契約一時金合計	2,698
差引額：買収した現金および現金同等物	-
正味キャッシュ・アウトフロー	2,698

9 金融商品

直近の年次財務諸表にあるように、当社の主な金融商品は金融派生商品、その他の投資、売掛金およびその他の債権、現金および現金同等物、買掛金およびその他の債務、有利子負債と借入金です。注記 1 に示したように、2012 年の当社のアニュアルレポート 148 ページと 149 ページおよび米国証券取引委員会 (SEC) への提出書類 20-F で開示されている金融商品における公正価値測定を含む会計方針に変更はありません。さらに、当社の金融商品の分類または公正価値ヒエラルキーにも重大な変更はありません。2013 年 12 月 31 日の時点において、公正価値によって査定した金融商品には 10 億 7,700 万ドルのその他の投資、19 億 7,800 万ドルの負債、4 億 200 万ドルの派生物が含まれています。2013 年 12 月 31 日時点の要約連結財政状態計算書では 103 億 7,600 万ドルの価値を持つ有利子負債と借入金の合計公正価値は 115 億 6,000 万ドルでした。注記 4 と 7 にあるように、年内の他社買収により発生する偶発的対価はレベル 3 の公正価値で査定されます。償却原価が適用される全ての他の金融商品については、償却原価は公正価値と同額です。

10 法的手続きと偶発債務

アストラゼネカは、製造物責任、商事紛争、知的財産権の侵害、特定特許の有効性、反トラスト法、営業・販売活動に関連する訴訟や調査など、事業の性格上、一般的と見なされるさまざまな法的手続きに関与しています。以下の項目は、当社の2012年度アニュアルレポート、米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-F（「2012年度開示」）、2013年6月30日までの6カ月間の上半期会計報告書の一部として2013年中間管理基準書における法的手続きの開示以降の重要な進展です。以下または2012年度開示で特に指摘されていない申し立てに関しては、引当金を設定していません。

2012年度のアニュアルレポート；および米国証券取引委員会（SEC）への提出書類2012-F で説明している通り、アストラゼネカが関係する申し立ての大部分では、手続きの最終的解決によって生じる財務的影響を妥当に見積もることはできません。これらの訴訟では、アストラゼネカは、訴訟の性質と事実に関する情報のみを開示し、引当金は設定しません。

訴訟が解決または裁定されるか、量化できる罰金や処罰が決定されて上告が行われない場合、あるいは可能性の高い損害金額を妥当に見積もることができる場合は、負担した損失を記録するか、予想される損害に関する最善の予測に基づく引当金を設定します。

時間の経過に伴い立場が変わり得るため、これらの引当金を計算する際に使用した見積もりは本質的に不正確です。したがって、法的手続きの結果によって生じる損害が計上された引当金を超えないという保証はありません。このような不確実性の原因となる主な要素については、2012年度開示、当社アニュアルレポートおよび本書で詳細に説明しています。

アストラゼネカは、その知的財産権を全面的に信頼し、それらを積極的に防衛および行使しています。

2013年第4四半期および2014年1月に関する主な開示

特許訴訟

ネキシウム（エソメプラゾールマグネシウム）

米国内での特許訴訟

2013年10月、アストラゼネカは、Kremers Urban Pharmaceuticals Inc.(以下「Kremers 社」) および Aurobindo Pharma Limited (以下「Aurobindo 社」) から個別にネキシウムに関するパラグラフ IV 通知を受領しました。2013年12月、アストラゼネカは通知への対応として、ニュージャージー地区米国連邦地方裁判所で Kremers 社と Aurobindo 社のそれぞれに対し特許侵害訴訟を開始しました。

以前に開示したとおり、2011年2月、アストラゼネカは、Hanmi USA Inc.と関連会社（以下「Hanmi 社」）がエソメプラゾールストロンチウム除放射性カプセルの FDA 販売承認を取得するためのセクション505(b)(2)に基づく新薬承認申請（NDA）を受けて、ニュージャージー地区地方裁判所で Hanmi 社に対し特許侵害訴訟を開始しました。2013年6月、アストラゼネカは米国連邦巡回控訴裁判所（控訴裁判所）に対する、2012年12月の地方裁判所の申し立てに関する解釈に対するアストラゼネカの上告の審理を加速するため、和解に合意しました。地方裁判所の同意判決のもと、Hanmi 社は係争中のアストラゼネカの2つの特許は有効であり、行使可能であることを認めました。2013年12月、控訴裁判所は、Hanmi 社の製品は係争中の特許を侵害しないという解釈を含む地方裁判所の申し立てに関する解釈を肯定しました。2014年1月、アストラゼネカは控訴裁判所に再審理を請求しました。アストラゼネカは、505(b)(2)に基づき NDA を申請した Hanmi 社のエソメプラゾールストロンチウム製剤は AB ランクに該当せず、自動的にネキシウムの代替品にはならないと考えています。

米国外での特許訴訟

以前に開示したとおり、2011年オーストラリアで Ranbaxy Laboratories Ltd と Ranbaxy Australia Pty Ltd (両社で、Ranbaxy 社) が、ネキシウムの2件の特許（オーストラリア特許 No. 676337 とオーストラリア No. 695966）を無効として、オーストラリア連邦裁判所に、取り消し請求を行いました。一方、アストラゼネカはこれら特許の侵害を申し立て、さらに、別のネキシウムの特許（オーストラリア特許 No. 695774）についても侵害を申し立てました。2013年5月、オーストラリア連邦裁判所は係争中の特許全ての有効性を継続的に認めるとともに、Ranbaxy 社は特許 676337 および 695966 を侵害しているが、特許 695774 は侵害していないと判断しました。Ranbaxy 社はこの判決を上告し、アストラゼネカも対抗し上告しました。2013年11月、アストラゼネカと Ranbaxy 社は、和解契約を締結しました。合意しました。この契約により、すべての関連訴訟は終了しました。

カナダでは、Apotex 社に対する特許侵害訴訟が継続しています。2013年9月から11月まで公判が行われました。その判決は保留中です。

カナダでは、2012年10月、連邦裁判所は Pharmascience Inc. (PMS) がエソメプラゾール製品の販売承認を2018年5月まで取得することを禁じました。PMS は上訴し、その判決は保留中です。

カナダでは、2013年12月16日、アストラゼネカは以前に開示した Ranbaxy Pharmaceuticals Canada Inc.とのコンプライアンス通知の訴訟について和解しました。

以前に開示したとおり、英国において、2010年9月、アストラゼネカは Consilient Health Limited (以下、Consilient社) および Krka, d.d., Novo Mesto (以下、Krka社) に対し特許侵害訴訟を提起しました。Consilient社およびKrka社は、過去に、

特許侵害訴訟の結果が出るまでそれぞれのエソメプラゾール製品を発売しないことに合意しました。この差し止め命令は2011年7月に取り消されましたが、アストラゼネカはこの差し止め命令の結果生じた損害に責任を負う可能性があります。2012年、Consilient社およびKrka社は損害賠償請求を提起しました。損害賠償に関する口頭審判は2013年12月に実施され、明らかになった事実関係は2014年1月に公表されました。今後Consilient社とKrka社に対して損害賠償金が支払われます。このための準備金が計上されました。判決は保留中です。

アストラゼネカは引き続きNexiumを保護する特許を確信し、適切な法的措置を講じていきますが、更なる後発品発売および不利な判決の可能性があります。

Prilosec (オメプラゾールカプセル)

米国内での特許訴訟

以前に開示したとおり、アストラゼネカはApotex CorpおよびApotex Inc (2社でApotex社) に対し、特許侵害による損害の回復を申し立てました。2013年12月11日、ニューヨーク南地区米国連邦地方裁判所は最終審決に至り、Apotex社に対し約1億400万ドルの支払いを命じました。Apotex社はこの判決に対し上告しました。

パルミコート吸入液 (ブデソニド吸入用懸濁液)

米国内での特許訴訟

以前に開示したとおり、2013年4月1日、ニュージャージー地区地方裁判所は、アストラゼネカの米国特許番号6,598,603 (特許603) は無効であるとともに、この訴訟に関与している後発品メーカーの被告は2つ目の特許である米国特許番号7,524,834 (特許834) を侵害していないとする判決を下しました。アストラゼネカはこの判決に対し上告し、2013年5月24日、連邦巡回控訴裁判所 (控訴裁判所) は後発品メーカーに対し、訴訟期間中の市場参入を禁じました。2013年10月30日、控訴裁判所は地方裁判所の判断 (原告である後発品メーカーが特許834を侵害していない) を無効にし、下級審に差し戻す判決を下しました。ただし、特許603については無効であるとの地方裁判所の判断を支持しました。2013年12月18日、地方裁判所はアストラゼネカの動議を認め、仮差止めに対するアストラゼネカの動議に関する判決が下されるまでの間、一時的に後発品メーカーに対し市場参入を禁じました。

セロクエル XR (クエチアピンフマル酸塩)

米国外での特許訴訟

以前に開示した通り、2012年3月、英国高等裁判所はセロクエル XR の製剤特許が無効であるとの判決を下しました。2013年4月、控訴裁判所はアストラゼネカの上告を否認しました。2013年12月、最高裁判所は控訴裁判所の決定への上告は受理しないことを決定しました。

2013年10月、バルセロナ控訴裁判所 (スペイン) は2013年7月のバルセロナ商事裁判所の判断を棄却し、セロクエル XR の製剤特許が無効であるとの判決を下しました。アストラゼネカはこの判決に対し上告しました。

以前に開示したとおり、2013年3月、カナダ連邦裁判所は、カナダ保健大臣による Teva Canada Limited (Teva) のセロクエル XR に関連するクエチアピンフマル酸塩後発品の製造販売承認に対するアストラゼネカの発行差し止め請求を棄却しました。Teva はこれらの審理により生じた section 8 損害賠償請求を提起しました。

ポルトガルでは、セロクエル XR の製剤特許に関連して多くの訴訟がありました。これまでに3件の仲裁陪審団による決定がそれぞれ2013年9月、10月、11月に下され、そのすべてがアストラゼネカに有利な決定でした。ポルトガルでは他の同様の審理が進行中です。

ベルギーでは、2013年12月、アントワープ商事裁判所がセロクエル XR の製剤特許を無効と判断しました。アストラゼネカはこの決定に対し上告する予定です。

セロクエル XR の後発品はオーストリア、デンマーク、ドイツ、イタリア、ポルトガル、ルーマニア、英国を含むヨーロッパ地域で発売されています。アストラゼネカは、セロクエル XR を保護する特許を確信しており、今後も適切な法的措置を講じる予定ですが、さらなる後発品の発売や、裁判所により不利な決定が下される可能性があります。

Vimovo (ナプロキセンとオメプラゾールの定量配合剤)

2014年1月、アストラゼネカと POZEN 社は Vimovo の後発品販売承認を求める2件の ANDA に対しニュージャージー地区米国地方裁判所に特許侵害訴訟を提起しました。別途 Vimovo の後発品に関する4件の特許侵害訴訟が同裁判所で係争中です。審理の日程は未定です。

製造物責任訴訟

バイエッタ・ビデュリオン (エキセナチド)

アストラゼネカの完全出資子会社である Amylin Pharmaceuticals LLC は、バイエッタあるいはビデュリオン治療による健康被害を申し立てる合計442人の原告が関与する米国の様々な連邦および州政府の裁判所における272件の訴訟の被告です。訴訟の申し立ては膵臓炎、膵臓がん、および甲状腺がんを含む複数のタイプの損傷に対するものです。連邦裁判所に提起された膵臓がんの申し立てに関連し Multi-District Litigation (MDL: 複数地区訴訟) が、カリフォルニア南部地区米国地方裁判所に制定されました。さらに、カリフォルニア州裁判所の様々な訴訟に関連して、総括審理がカリフォルニア州ロサンゼルスに制定されました。バイエッタによる膵臓炎を申し立てている被告1名の公判がカリフォルニア州裁判所総括審理において2014年2月18日に予定されています。

ネキシウム (エソメプラゾール)

以前に開示したとおり、アストラゼネカは、Nexium が骨損傷、骨密度低下、骨折の原因であると申し立てる約 1,900 名の原告により提起された製造物責任訴訟の被告です。これらのうち約 1,700 名の原告の申し立ては、MDL 手続きを通じて、カリフォルニア中央地区米国地方裁判所での公判前審理のために統合されました。2013 年 11 月、同 MDL 裁判所は 1,104 名の原告の申し立てを却下することを決定しました。2013 年 12 月、申し立てを却下された 1,104 名の原告のうち、522 名が連名で MDL 裁判所に彼らの申し入れを再提出しました。アストラゼネカは未だ保留府のこの動議を争います。2014 年 1 月 13 日、MDL 裁判所は更に 179 名の申し立てを却下しました。

セロクエル IR (クエチアピソマル酸塩)

以前に開示されたとおり、カナダ・オンタリオ州で、アストラゼネカがセロクエル IR と特定の健康リスクとの関連性について十分な警告を怠ったとの申し立てによる集団訴訟が開始されました。2013 年 10 月、オンタリオ州高等裁判所は訴えを棄却し、原告側が裁判所の棄却判断に対して上訴するすべての権利を放棄すると同意し、アストラゼネカが当該訴訟にかかわる費用を請求しないことに同意した和解を認めました。

商事訴訟

クレストール刑事的民事訴訟

下記の政府の調査セクションに開示されているとおり、米国連邦地検およびテキサス州を除くすべての州は、以前に開示されたクレストールに関する調査の民間に関する部分に介入することを辞退しました。その結果、アストラゼネカはデラウェア州ウィルミントン米国連邦裁判所に提起された訴訟の被告となりました。これは、連邦虚偽請求取締法の民事条項（公益通報者）およびフロリダ州公益通報者法のもと、アストラゼネカが一定の従業員にクレストールの適応外使用の宣伝を指示したとする申し立てです。アストラゼネカは本件を精力的に争います。

塩野義製薬 クレストールロイヤリティ算定基準に関する仲裁

以前に開示されたとおり、2012 年 7 月、塩野義製薬株式会社（塩野義）は、クレストール売上のロイヤリティの算定における一定の物品税およびその他の特定の項目の取り扱いに関する問題を解決するための仲裁手続きを開始しました。2013 年 12 月 26 日、両社は仲裁の全面的な解決とクレストールのグローバルライセンス契約の延長を発表しました。

ネキシウム消費者訴訟 (エソメプラゾールマグネシウム)

以前に開示したとおり、アストラゼネカは、デラウェア州高等裁判所において、アストラゼネカは医師、消費者、第三者支払者に対するネキシウムの販売促進活動および宣伝活動が不公平、違法、不正であると申し立てる訴訟の被告です。本訴訟は 2005 年以降、進捗はありません。2013 年 12 月 17 日、裁判所は、アストラゼネカの本案の取り消しを求める動議を、起訴できなかったことを理由に棄却しました。アストラゼネカは 2014 年第 1 四半期に本案の審理が再開されると予想しています。

ネキシウム反トラスト法訴訟

以前開示したとおり、アストラゼネカは、ネキシウムに関連する特許訴訟におけるアストラゼネカの和解は米国の反トラスト法や様々な州法に違反していると申し立てる、統合された、広域係属訴訟 (MDL) である集団訴訟における数名の被告人のひとりです。

2013 年 9 月、2013 年 4 月の口頭弁論を経て、マサチューセッツ州地方裁判所（統合された広域係属訴訟の提訴先）は覚書を発出し、原告の訴えの一部に関して訴訟の棄却を求めるアストラゼネカの申し立てを棄却し、その他の訴えについては被告の訴えの一部を認め、一部を棄却しました。

また、2013 年 9 月、裁判所は原告が提案する 2 つの集団認定に関する原告の申し立てに関する口頭弁論を実施しました。アストラゼネカは提案された集団を認定する原告の申し立てに強く反論しており、裁判所による集団認定に関する判決は保留されています。集団を認定する判決が出た場合、直ちに上訴を行います。当社は、原告の主張は本案を欠いており、当社の和解契約は法令に順守したものであると信じています。アストラゼネカは、原告の事実関係の主張、法的理論、損害の主張について引き続き精力的に争います。

原告は、損害賠償を請求しています。その金額は、申し立てをしている集団が支払ったネキシウムの価格と 2008 年 4 月（またはこれ以降の複数の時期）から現在までにエソメプラゾールの後発品に支払ったであろうと申し立てている価格との差に基づいており、連邦法及びいくつかの州法において 3 倍になります。原告は、いくつかの事実上の前提に基づき、申し立てをしている集団の被害額のレンジは、3 倍増前で、97 億ドルから 271 億ドルであると考えていることを示唆しました。

アストラゼネカは原告の損害シナリオは、推測であり、事実と異なり、本案を欠くものであり、裁判の最終的な解決の結果もたらされると予想される金銭的影響の妥当な推定ではないと考えています。さらなる法的、手順的、証拠に基づく裁判所の判決により、原告が最終的に請求可能な損害賠償金額のレンジが大きな影響を受ける可能性があります。本件に関する引当金は計上されていません。

2013 年 10 月 15 日、アストラゼネカと Ranbaxy 社は、原告らの 2008 年の和解契約に関する主張は 4 年の出訴期限法によって禁じられていることを理由に、略式判決の申し立てを行いました。現在、この出訴期限法関連申し立ての審理は 2013 年 11 月 26 日に開かれる予定です。その他の略式判決の申し立て及び鑑定証人への忌避申し立ては 2013 年 11 月 26 日あるいはそれ以前に提出される予定です。

政府による調査

セルビア

以前に開示されたとおり、2011年8月、セルビアのベルグラードにあるアストラゼネカ現地法人（現地法人）はアストラゼネカの現地従業員および他の数社の製薬企業がセルビアの Oncology/Radiology 研究所の医師に不適切な支払いを行ったとの刑事告発を受けました。2013年12月、検察官が告訴を棄却後、現地法人はセルビアの検察官と合意に達しました。準備金が計上されました。

その他米国連邦地裁による調査

以前に開示されたとおり、アラバマ州、デラウェア州、テキサス州の米国連邦地裁は米国法務省とともに、クレストールとセロクエルに関わる営業・マーケティング活動に関する調査を実施しています。2014年1月、アストラゼネカは法務省およびテキサス州を除く全ての州がセロクエルに関する連邦事案への非介入通知を発行する意図について連絡を受けました。

クレストールの調査に関しては法務省およびテキサス州を除く全ての州が本調査の民事部分への介入を辞退しました。法務省による本調査の追加的調査およびテキサス州の法務長官による調査は継続中です。

10 通年の製品売上にに関する分析

	全世界		米国		ヨーロッパ		ROWの既成市場		新興市場	
	2013年通年 100万ドル	CER %	2013年通年 100万ドル	CER %	2013年通年 100万ドル	CER %	2013年通年 100万ドル	CER %	2013年通年 100万ドル	CER %
循環器										
クレストール	5,622	(8)	2,912	(8)	1,225	(3)	807	(27)	678	17
Atacand	611	(39)	72	(52)	225	(52)	71	(49)	243	(1)
セロケン/Toprol-XL	750	(18)	131	(59)	130	(5)	24	(7)	465	8
オングリザ	378	17	265	12	56	12	20	54	37	61
スプレンジール/Plendil	260	2	-	(100)	21	(17)	10	(17)	229	7
テノーミン	197	(7)	15	50	51	(6)	77	(13)	54	(7)
Brilinta/Brilique	283	216	73	284	163	179	17	n/m	30	210
バイエッタ	206	181	152	105	36	n/m	11	n/m	7	n/m
ビデュリオン	151	308	131	254	17	n/m	1	n/m	2	n/m
Forxiga	10	n/m	-	-	10	n/m	-	-	-	-
その他	362	4	50	100	164	(5)	25	(15)	123	2
循環器合計	8,830	(6)	3,801	(6)	2,098	(6)	1,063	(25)	1,868	11
消化器										
ネキシウム	3,872	-	2,123	(7)	360	(21)	597	41	792	8
Losec/Prilosec (オメプラール)	486	(28)	30	-	131	(33)	165	(39)	160	(9)
その他	231	16	178	23	43	(5)	7	-	3	-
消化器合計	4,589	(3)	2,331	(5)	534	(24)	769	9	955	5
呼吸器										
シムビコート	3,483	10	1,233	23	1,502	1	423	7	325	17
バルミコート	867	1	224	(4)	171	(13)	112	2	360	13
その他	327	(8)	58	(11)	115	(13)	33	(15)	121	1
呼吸器合計	4,677	7	1,515	16	1,788	(2)	568	4	806	13
オンコロジー										
ゾラデックス	996	-	23	(4)	252	(8)	372	(4)	349	10
イレッサ	647	11	-	-	177	11	202	9	268	14
フェソロデックス	681	6	324	5	221	(2)	62	21	74	29
アリミデックス	351	(30)	6	(71)	93	(34)	154	(35)	98	(6)
カンデックス	376	(7)	5	(267)	53	(13)	225	(10)	93	(4)
その他	142	15	25	-	29	53	60	14	28	4
オンコロジー合計	3,193	(2)	383	2	825	(6)	1,075	(7)	910	9
ニューロサイエンス										
セロクエル XR	1,337	(12)	743	(8)	416	(19)	71	(25)	107	12
セロクエル IR	345	(72)	(17)	n/m	105	(57)	106	(40)	151	(3)
局所麻酔	510	(2)	-	-	206	(5)	182	(1)	122	2
Vimovo	91	42	20	(20)	32	41	20	50	19	400
その他	452	(9)	33	18	113	(25)	97	(16)	209	3
ニューロサイエンス合計	2,735	(29)	779	(50)	872	(24)	476	(19)	608	6
感染症・その他										
シナジス	1,060	2	617	1	443	4	-	-	-	-
Merrem	293	(24)	11	(71)	49	(42)	5	(72)	228	(8)
FluMist	245	35	199	14	42	n/m	4	33	-	(100)
その他	89	(5)	55	(5)	7	(63)	13	55	14	(17)
感染症・その他合計	1,687	(1)	882	-	541	3	22	(19)	242	(9)
Aptium Oncology	-	(100)	-	(100)	-	-	-	-	-	-
合計	25,711	(6)	9,691	(9)	6,658	(9)	3,973	(10)	5,389	8

11 第4四半期の製品売上に関する分析

	全世界		米国		ヨーロッパ		ROWの既成市場		新興市場	
	2013年第4四半期 100万ドル	CER %	2013年第4四半期 100万ドル	CER %	2013年第4四半期 100万ドル	CER %	2013年第4四半期 100万ドル	CER %	2013年第4四半期 100万ドル	CER %
循環器										
クレストール	1,463	(8)	779	(10)	311	(3)	204	(19)	169	14
Atacand	134	(33)	10	(69)	54	(29)	13	(58)	57	(6)
セロケン/Toprol-XL	170	(32)	19	(81)	33	(9)	7	29	111	(3)
オングリザ	93	6	63	-	15	-	6	50	9	50
スプレンジール/Plendil	66	3	-	-	6	(17)	3	-	57	6
テノーミン	46	(9)	3	50	13	(7)	19	(21)	11	9
Brilinta/Brilique	92	139	24	167	51	113	6	250	11	175
バイエッタ	54	17	36	(23)	11	n/m	4	n/m	3	n/m
ビデュリオン	49	88	40	54	6	n/m	1	n/m	2	n/m
Forxiga	3	n/m	-	-	3	n/m	-	-	-	-
その他	92	(4)	15	15	39	(12)	6	(40)	32	10
循環器合計	2,262	(8)	989	(14)	542	1	269	(18)	462	8
消化器										
ネキシウム	991	(3)	545	(9)	92	(12)	165	30	189	(5)
Losec/Prilosec (オメプラール)	122	(18)	7	40	35	3	41	(36)	39	(7)
その他	55	2	42	14	10	(17)	2	-	1	(100)
消化器合計	1,168	(5)	594	(7)	137	(9)	208	7	229	(6)
呼吸器										
シムビコート	976	11	350	28	395	-	129	(1)	102	21
バルミコート	245	3	59	5	44	(16)	34	5	108	10
その他	85	(12)	16	(11)	28	(13)	9	(23)	32	(6)
呼吸器合計	1,306	7	425	22	467	(3)	172	(1)	242	12
オンコロジー										
ゾラデックス	247	1	5	-	60	(13)	96	(5)	86	23
イレッサ	158	5	-	-	45	2	53	2	60	11
フェソロデックス	182	6	87	5	58	(4)	17	10	20	40
アリミデックス	86	(23)	4	-	22	(19)	38	(33)	22	-
カンデックス	95	(4)	2	-	13	(7)	57	(6)	23	-
その他	40	19	7	17	9	50	18	22	6	(14)
オンコロジー合計	808	-	105	7	207	(6)	279	(7)	217	15
ニューロサイエンス										
セロクエル XR	337	(12)	194	(9)	104	(15)	11	(56)	28	21
セロクエル IR	35	(64)	(19)	n/m	24	(31)	(2)	n/m	32	3
局所麻酔	132	(1)	-	-	53	(2)	49	4	30	(6)
Vimovo	24	39	3	(50)	9	14	6	40	6	-
その他	114	(4)	9	29	27	(7)	24	(17)	54	2
ニューロサイエンス合計	642	(14)	187	(13)	217	(13)	88	(38)	150	8
感染症・その他										
シナジス	515	2	300	(1)	215	8	-	-	-	-
Merrem	77	(25)	2	(89)	11	(39)	-	(100)	64	-
FluMist	50	56	22	(24)	26	n/m	2	100	-	(100)
その他	16	(28)	10	(47)	-	-	5	n/m	1	(70)
感染症・その他合計	658	-	334	(10)	252	14	7	n/m	65	(10)
Aptium Oncology	-	(100)	-	(100)	-	-	-	-	-	-
合計	6,844	(4)	2,634	(7)	1,822	(2)	1,023	(10)	1,365	6

株主情報

発表および総会

2014年 第1四半期業績発表	2014年 4月24日
年次総会	2014年 4月24日
2014年 第2四半期・上半期業績発表	2014年 7月31日
2014年 第3四半期・9カ月累積業績発表	2014年 11月6日

配当

2013年9月16日に支払われる第1回期中配当の基準日は2013年8月16日です。株式は、2013年8月14日から配当落ちとして取引されます。

2014年3月24日に支払われる2013年度第2回期中配当の基準日は2014年2月21日です。株式は2014年2月19日から配当落ちとして取引されます。

今後の配当は、通常、以下の予定により支払われます。

第1回中間配当	第2四半期および上半期業績とともに発表、9月に支払を実施。
第2回中間配当	第4四半期および通年業績とともに発表、3月に支払を実施。

商標

アストラゼネカグループおよびアストラゼネカ以外の他社の商標は、本文書中、斜体で表示しています。アストラゼネカのロゴ、シンボルは全て、アストラゼネカグループの商標です。本文書におけるアストラゼネカ以外の他社の商標には、Forest Laboratories社の *Zinforo* を含みます。

連絡先

株式登録および
名義書換事務所
Equiniti Limited
Aspect House
Spencer Road
Lancing
West Sussex
BN99 6DA UK

預託銀行
JP Morgan Chase & Co
PO Box 64504
St Paul
MN 55164-0504
US

届出事務所
2 Kingdom Street
London
W2 6BD
UK

スウェーデン証券集中保管機関
Euroclear Sweden AB
PO Box 191
SE-101 23 Stockholm
Sweden

電話（英国内通話料無料）
0800 389 1580
電話（英国以外）
+44 (0)121 415 7033

電話（米国内通話料無料）
888 697 8018
電話（米国以外）
+1 (651) 453 2128

電話 +44 (0)20 7604 8000

電話 +46 (0)8 402 9000

お問い合わせ先

報道関係:	Esra Erkal-Paler (ロンドン)	+44 20 7604 8030
	Vanessa Rhodes (ロンドン)	+44 20 7604 8037
	Ayesha Bharmal (ロンドン)	+44 20 7604 8034
	Jacob Lund (スウェーデン)	+46 8 553 260 20

アナリスト / 投資家向け情報:	Karl Hård (ロンドン)	+44 20 7604 8123
	Colleen Proctor (米国)	+1 302 886 1842
	Anthony Brown (ロンドン)	+44 20 7604 8067
	Jens Lindberg (ロンドン)	+44 20 7604 8414

将来予想に関する記述についての警告文

特に米国民事証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act 1995) の「セーフハーバー」規定の適用を受けるため、当社は以下の警告文を発します: 期中財務諸表には、グループの事業運営、業績および財政状態にかかわる将来予想に関する記述が一部記載されています。当社では予想は合理的な仮定に基づいていると考えていますが、将来予想に関する記述は、その性質上リスクや不確定要素を伴い、様々な要因の影響を受ける可能性があり、かかる要因によって実際の成果や結果は、予測と大幅に異なったものになる可能性があります。将来予想に関する記述は、期中財務諸表の作成日現在入手可能なデータや情報を反映しており、アストラゼネカがこうした将来予想に関する記述を更新する義務を負うものではありません。将来予想に関する記述の中で当社が使用している言葉として、「期待」「考え」「予想」「意図」などが挙げられますが、それと類似した表現も使用しています。実際の結果が将来予想に関する記述と大幅に異なったものになる重要な要因には、当社にとって不可抗力のものが含まれます。かかる要因として、特に次のことが挙げられます: 特許権や独占販売権または商標の失効ないし満了、特許保護の取得に失敗するリスク、実質的な悪影響を及ぼす訴訟/政府の調査要求および不十分な保険の補償範囲に関するリスク、為替相場の変動、研究開発の結果商業的成功につながる新製品が開発されないリスク、戦略的提携が不成功に終わるリスク、競争・価格統制・価格下落による影響、課税のリスク、多額の製造物責任請求、製品の製造、流通、販売の遅れによる影響、サードパーティが材料やサービスを供給できない場合の影響、不適切な危機管理に伴うリスク、新製品の上市が遅れるリスク、製品に対する規制当局の承認を取得し維持することが困難な状況、規制当局の取り締まりに従わないことによるリスク、新製品が期待通りに機能しないリスク、環境に関する法的責任を被ることのリスク、新興市場での事業活動に伴うリスク、評判にダメージを受けるリスク、製品が偽造されるリスク、生産性への取り組みと事業再構築プログラムを通じて計画したコスト削減措置を順調に実施できないリスク、規制当局によるバイオシミラーの承認プロセスが将来的な商業見通しに悪影響を及ぼすリスク、主要な従業員維持および従業員との適切な関係構築の失敗による影響、より厳格な贈賄禁止法および腐敗防止法の実施と執行の増加。